

BizRobo! Basic v11.5 新機能の紹介

2025年2月3日

BizRobo!



オープン株式会社
プロダクト&サポート部
プロダクト デリバリー チーム

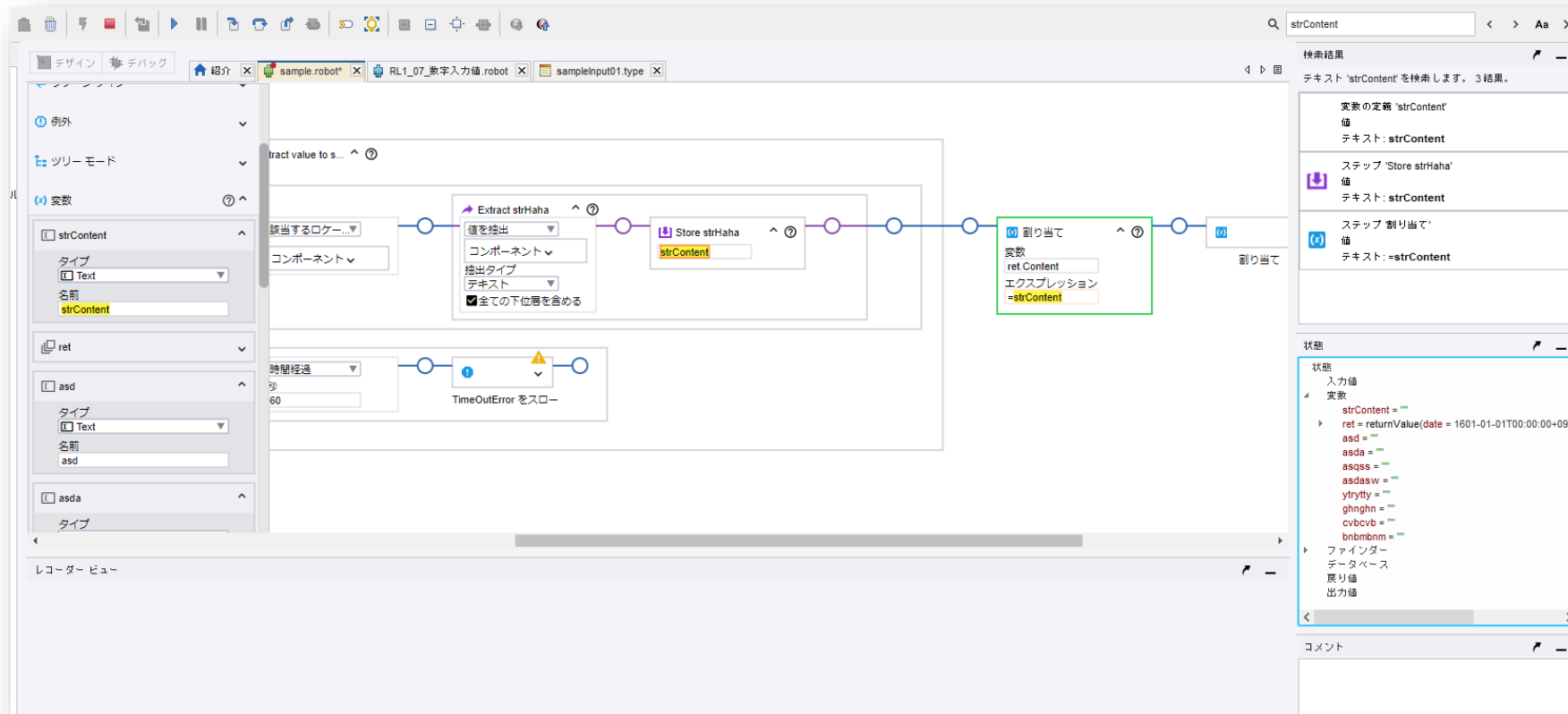
目次

1. 11.5 のハイライト
2. Design Studioとロボット
3. Management Console
4. Kapplets
5. その他

11.5のハイライト

1. ロボットのUXの向上

- **ロボット**が**ベーシックエンジンロボット**から呼び出されるだけでなく、単独で実行できるようになりました。
こちらの新たな独立機能のおかげで、多くの業務では、**ロボット**の開発スキルだけで業務自動化ができます。
- Design Studioの**ロボット**開発のインターフェースが使いやすいうように改善されました。（詳細内容は後ページ）



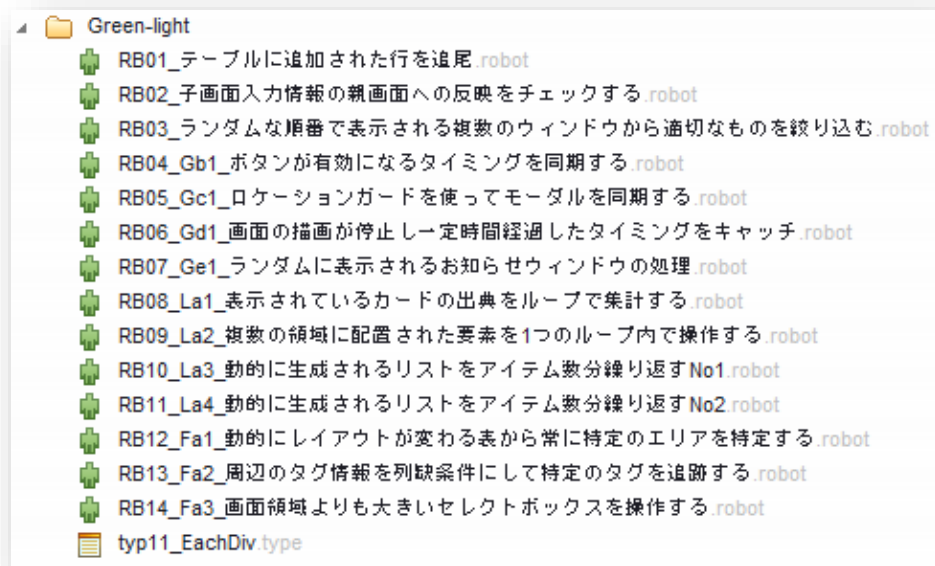
1. ロボットのUXの向上

- **ロボット**で自動化する業務の運用において、管理する成果物の数の削減することが可能になりました。
- **ロボット**の運用系の操作(実行、動作確認)において、直接ロボットを選んで実行できるようになり、操作は11.4と比較して楽になりました。(前は**ベーシックエンジンロボット**から初めに選択する必要がありました)

Design Studioから直接編集、実行可能

Management Consoleから直接手動実行、スケジュール設定、トリガー設定可能

Kappletsも同じく、手動とスケジュール実行などは**ロボット**のみで設定が可能

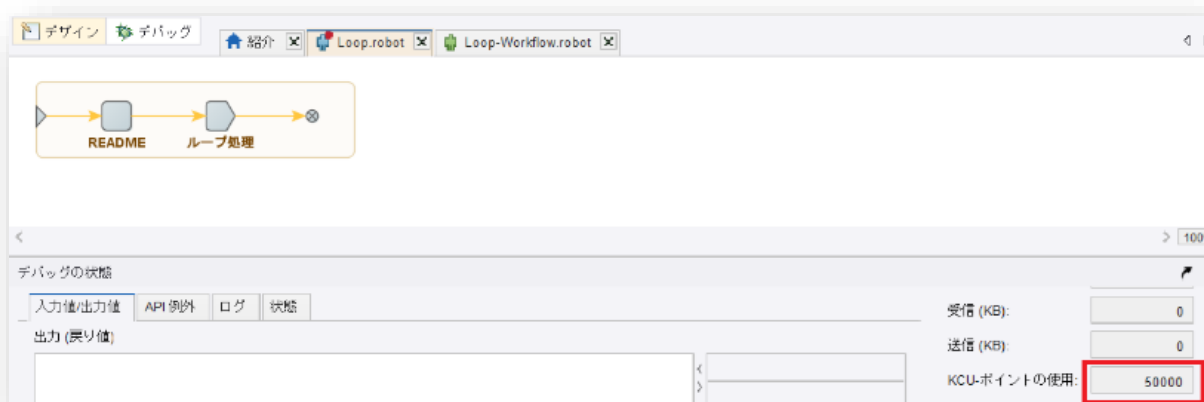


<input type="checkbox"/>	フォルダ	名前	タイプ
<input type="checkbox"/>	Robots/Green-light/	RB01_テーブルに追加された行を追尾	ロボット
<input type="checkbox"/>	Robots/Green-light/	RB02_子画面入力情報の親画面への反...	ロボット
<input type="checkbox"/>	Robots/Green-light/	RB03_ランダムな順番で表示される複...	ロボット
<input type="checkbox"/>	すぐに実行	RB04_Gb1_ボタンが有効になるタイミ...	ロボット
<input type="checkbox"/>	フォルダの設定	RB05_Gc1_ロケーションガードを使っ...	ロボット
<input type="checkbox"/>	スケジュールの作成	RB06_Gd1_画面の描画が停止し一定時...	ロボット

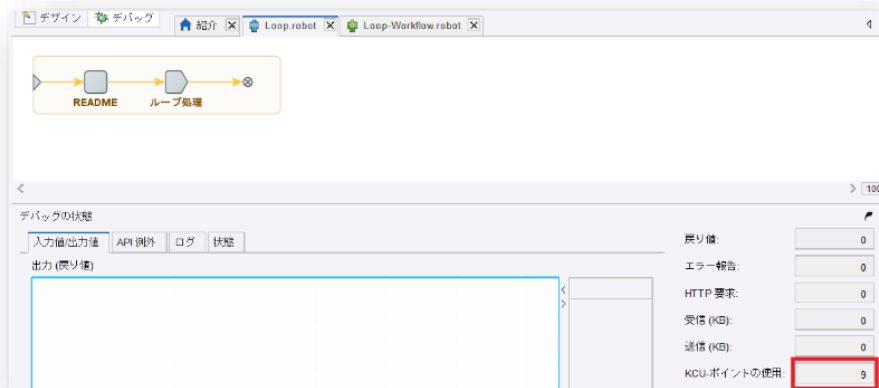
1. ロボットのUXの向上

・**ロボット**のKCU消費仕様が変更され、よりループ処理にやさしくになりました。

例：9回ループを実行する**ロボット**を 11.4 と11.5で実行した結果、
11.4では50000KCUポイントを消費しました。(9x5000pt + 5000pt ロボ呼び出し)



11.5では 9KCUポイントを消費しました。(9x1pt + 0pt ロボ呼び出し)

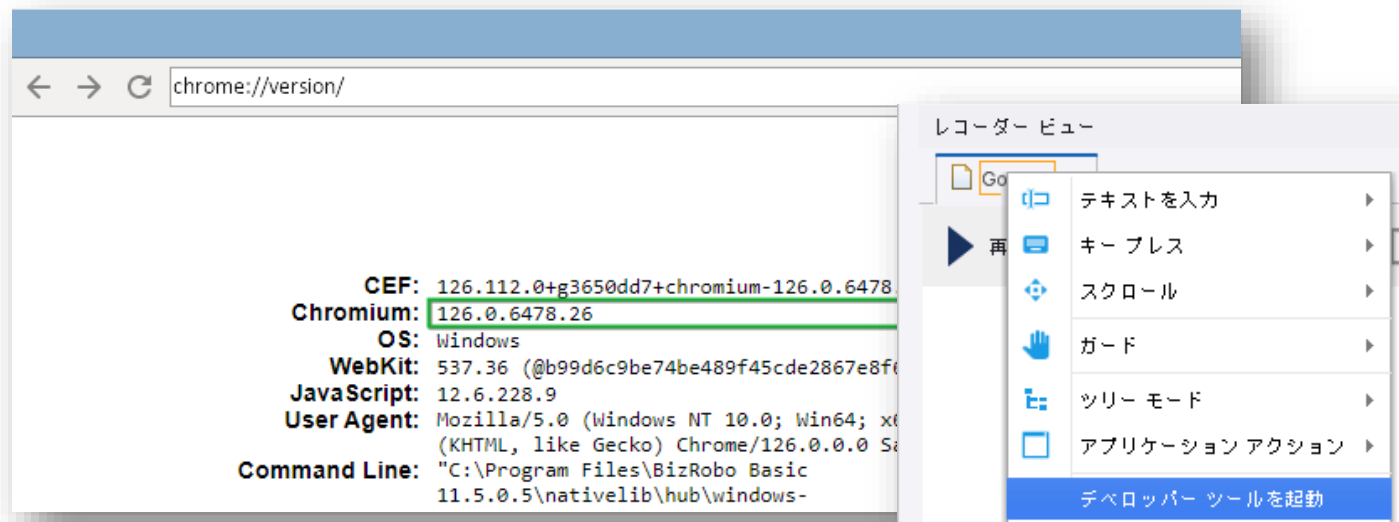


#		ポイント
No1	ループ	1
No2	ループ	1
No3	条件付きループ	1
No4	条件付きループ	1
No5	要素の繰り返し	1
No6	要素の繰り返し	1
No7	データベース照会	1
No8	電子メールごとに	1
No9	電子メールごとに	1
No10	ディレクトリの反復	1
No11	ディレクトリの反復	1
No12	参照	10000
No13	ウィンドウ	10000
No14	Excel	10000
No15	ターミナル	10000
No16	PDF	10000
No17	電子メール	10000
No18	カスタム アクション	10000
No19	開く	10000
No20	DA接続確立	10000
No21	同じ接続でロボット呼び出すステップ 10 個	10000
No22	割り当て	0
No23	クリップボードへ割り当て	0
No24	バンドル	0
No25	キーの計算	0
No26	クリック	0
No27	条件	0
No28	デバイスに接続	10000
No29	値の変換	0
No30	データベースから削除	0
No31	SQL 実行	0

1. ロボットのUXの向上

・**ロボット**のCEF(Chromium Embedded Framework)は以下の重要アップデートがあります。

- ・Chromiumのバージョンは 126になりました。
- ・Google Chromeのデバッガーを開発中にビルトインで簡単に起動できるようになりました。[前の手順](#)より簡単になりました。



2. Management ConsoleのUX向上

・従来は、ソケット通信でMCはRSに通信する際、RS端末の【ホスト/IPアドレスとポート】で接続する仕組みしかありませんでした。バージョン11.5からはRS端末のFirewallのポート(50000)を開けずに、RSからMCへHTTP(S)リクエストで繋ぎ、その接続で通信する新たな仕組みが追加されました：**クライアント系クラスタ**

・従来のソケット通信タイプに関してはそのままご利用いただけます。MCからRSの【ホスト/IPアドレスとポート】に届かない環境においては、クライアント系クラスタのご利用を推奨します。

クライアントとしての RoboServer Management Console との HTTP(S) 接続を作成します。この接続タイプは、高可用性モードではサポートされていません。



Cloud 上MC とオンプレ Roboserver の通信がVPN介せずに運用が可能になりました。

2. Management ConsoleのUX向上

・**サービス認証**機能にRoboServer、RFSが追加されました。
基本認証 (ID+Pwd)を使わずに、シークレットキーだけで
RoboServerと RFSはMCと接続することができます。

・**Design Studio**のライセンス認証やMCへの接続は、使用
端末のデフォルトブラウザのMCのログイン状態を利用して行
います。従来のように、ユーザーのIDおよび暗号化されたパス
ワードはローカルPCに保存されません。

その上に、DSでパスワードストアからパスワード取得、および
RFSの利用に関して、従来はDSトークンの設定が必要でした
が、11.5からはDSトークンの設定が不要になり、DSのログイン
中ユーザーでデフォルトに入っているDS executionトークンが
使用されます。

Management Console プロファイル > ユーザー API トークン

トークンを作成

Design Studio execution token

This token gives robots executed in Design Studio access to resources on Management Console like Password store and Robot File System
作成済み 7 か月前 - 4/24/2024, 3:38 PM

Management Console 管理 > サービス認証

サービス認証

	クライアントの名前	作成済み	共有シークレット
:	Kapplet	Friday, December 1, 2023 at 11:09 AM GMT+9	CkV1sPcbmO
:	RoboServer	Friday, December 1, 2023 at 11:09 AM GMT+9	IVugmqXNIZk
:	DAS	Friday, December 1, 2023 at 11:09 AM GMT+9	CgDuq58uDf
:	シンクロナイザー	Friday, December 1, 2023 at 11:09 AM GMT+9	9YYInh66DEu
:	RFS	Friday, December 1, 2023 at 11:09 AM GMT+9	42ew0Y76OlX

ログインしてください

ユーザー名

パスワード

ログイン

BizRobo!

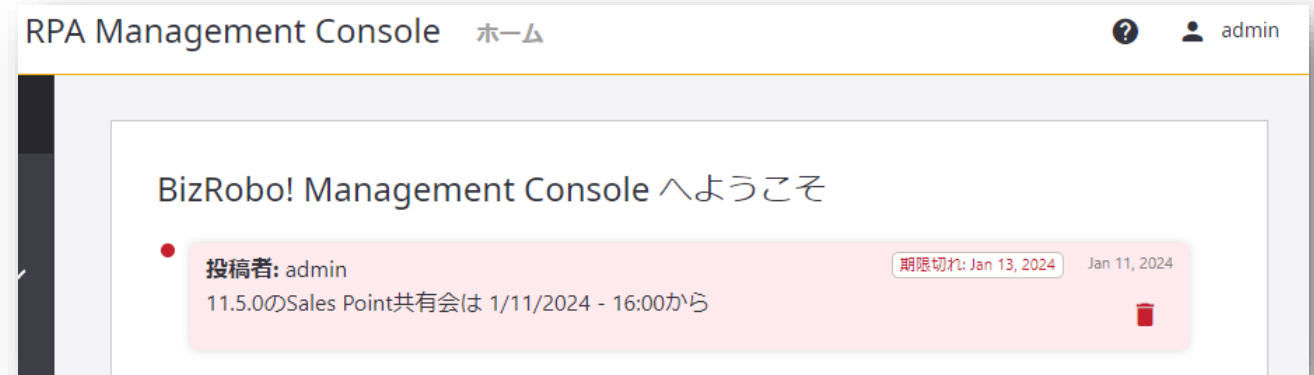
BizRobo! Management Console

このページは今すぐ閉じて問題ありません

Powered by
BizRobo!™
11.5.0.5.549

2. Management ConsoleのUX向上

・**ホームメッセージ投稿**機能が追加され、MCを利用する全てユーザーに対するお知らせができるようになりました。



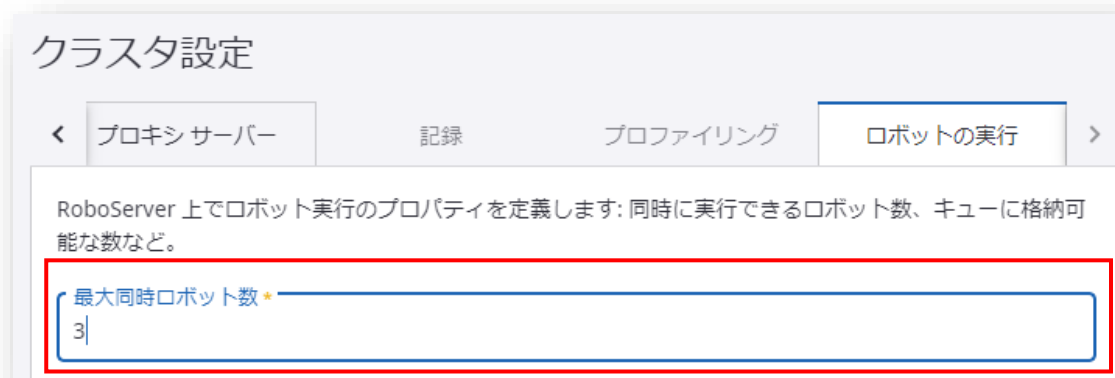
3. RoboServerのリソース調整機能

・MCから複数RoboServerで複数ロボット実行する場合、従来のMCでは次のロボットが一番空いている実行スロットを持つRoboServerにアサインされます。

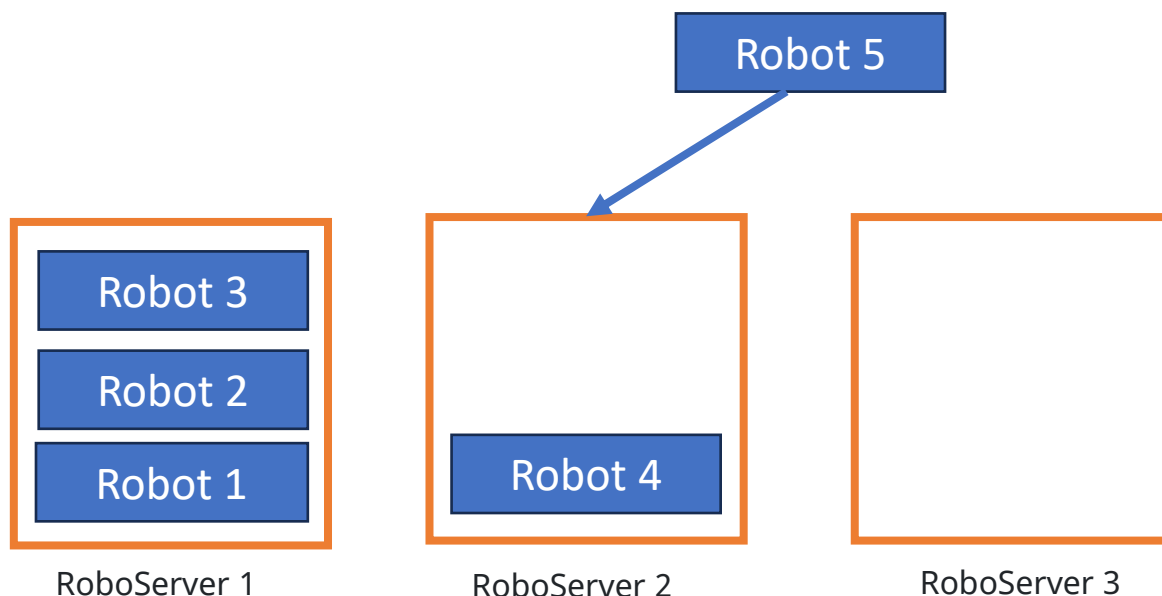
11.5からは、**RoboServerのスケーリング機能**で「実行予定のロボット」を「一番実行スロットが少ない」RoboServerに割り当てられます。これにより、RoboServerは一個ずつ使い切ってから次の方が利用されるように管理することができます。したがって、しばらく利用不要のRoboServerはオフすることができます。

特に、Cloud環境(AWS, Azure, GCP...)上でRoboServerを運用する場合、RoboServer端末をONにすると費用が掛かりますので、この機能によりコスト削減ができます。

デフォルトでは、こちらの機能はOFFになっています。



一つのRoboServerの実行スロットはクラスタで設定できます



Design Studio 全般

目次

【Design Studio】

Design Studio 製品

1. ライセンス認証機能の改善
2. 接続中のMCと切断オプション
3. Design Studioトークンを利用する必要がなくなりました

1. ライセンス認証の改善

Design Studio(DS)のライセンス認証やMCへの接続はブラウザーにて行われます。ユーザーのIDや暗号化されたパスワードはローカルPCに保存されないため、第三者による「なりすまし」の防止などにおけるセキュリティが向上します

※注意事項: DSの認証後、以下の2つのケースでは、DSから MC再認証が要求されます。

- ・PCを再起動した後にDSを起動する場合
- ・DSを閉じて、PCシャットダウン/再起動なしで4日間以上DS利用せずにDSを起動する場合



URLにMCのURLを入力



ブラウザーにてMCログイン画面が自動的に立ち上げ、ログイン後、DSが利用可能になります。

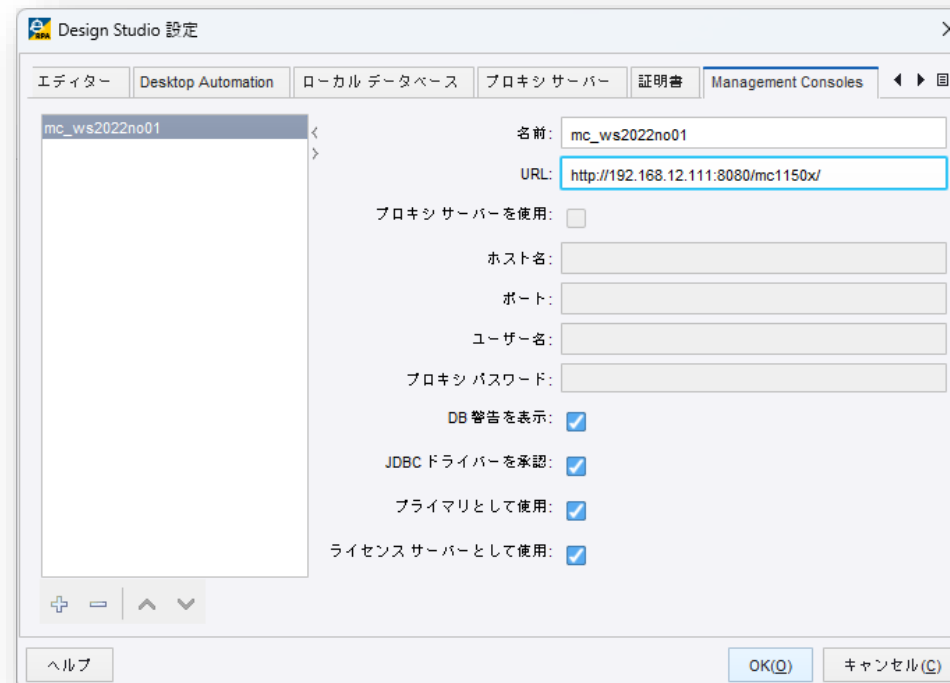
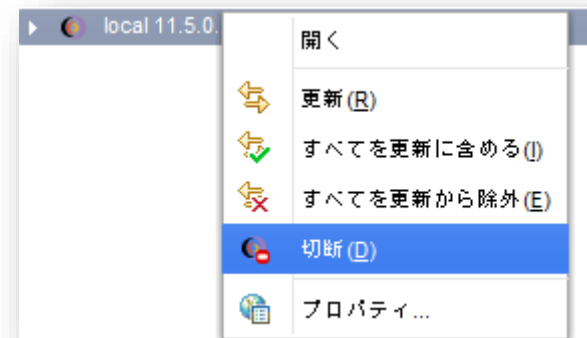
2. 接続中のMCと切断オプション

Design Studioの[マイ プロジェクト] ペインで [切断(D)] オプションを使用してDesign Studio を Management Console から切断することができます。

再接続を行う場合は、「更新(R)」ボタンを利用して、ブラウザーにてログインし、MCへ再接続します。

「接続される Management Console情報」にログインユーザーの設定箇所がなくなったため、Design StudioがManagement Consoleへ接続するユーザーを切り替えるには、「切断(D)」をクリックした後にユーザー変更をブラウザーで行い、その後「更新(R)」をクリックすることで切り替えがスタートします。

こちらのユーザー変更操作はブラウザー上で既にログイン中のユーザーを一度ログアウトし、新しいユーザーでログインします。



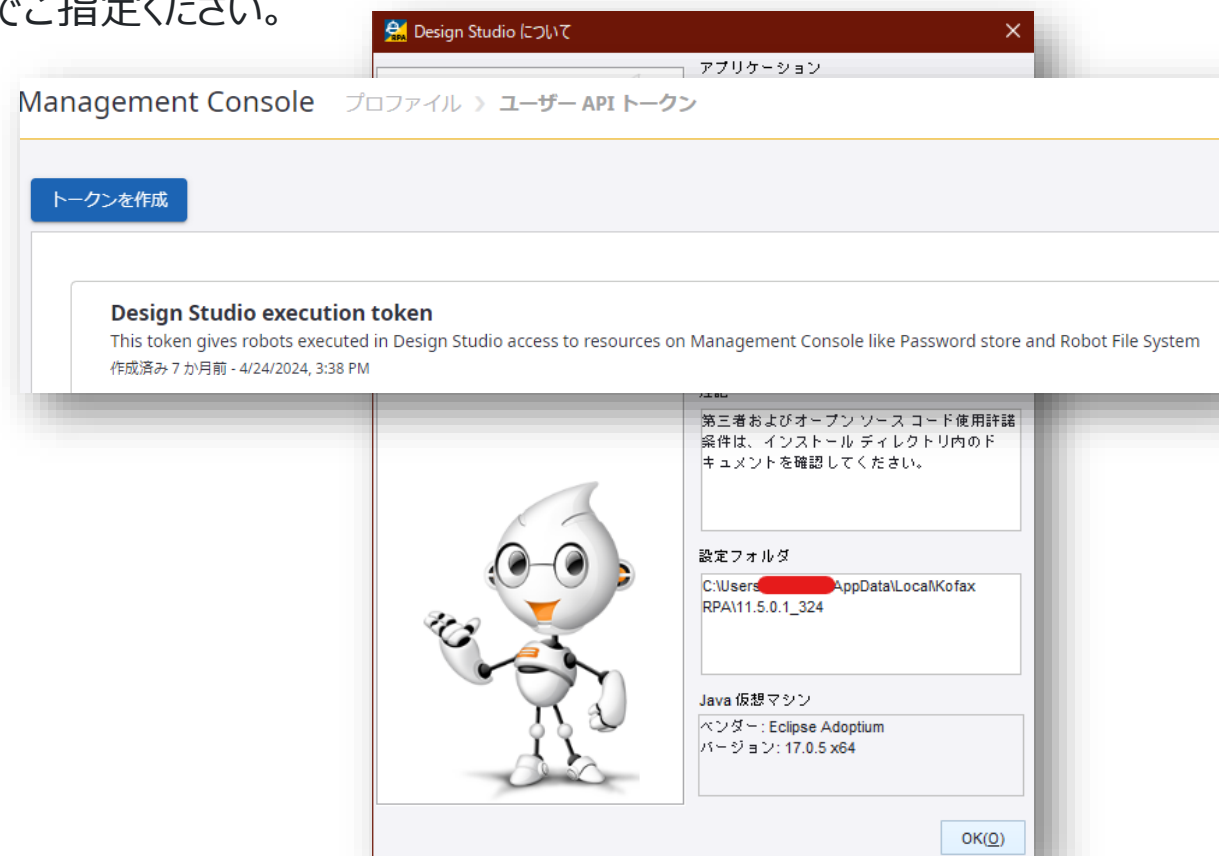
3. Design Studioトークンを利用する必要がなくなりました

11.5では、「[ユーザー API トークン](#)」を利用して、Design StudioからManagement Consoleのパスワードストア、およびRobot File Systemへのアクセスを制御します。「Design Studio execution token」を利用するため、[Design Studio] > [ヘルプ] > [バージョン情報] セクションに記載されていたDesign Studio アクセス トークンは必要なくなりました。

※注意事項：DSからパスワードストアへのアクセスについて、[こちらの不具合](#)により、該当パスワードエントリーについてパスワードアクセスエントリを作成することで、DSからアクセスできるようになります。トークンは「DS」でご指定ください。



Ver. 11.4



Ver. 11.5

Design Studio ロボット(旧 DA ロボット)

目次

【Design Studio】

ロボット(旧 DAロボット) 📌

1. スタンドアロンロボット (独立実行)
2. ロボットの定義パネル
3. ロボット用の「実行の準備」ボタン ⚡
4. ロボット設定の機能 📌
5. ロボットの「状態」ペインの改善
6. Chromium組込ブラウザ(CEF)の開発者ツール簡単起動
7. Chromium組込ブラウザ(CEF)のアップデートについて
8. 電子メール系のステップの改善

9. Built In Excel の改善

10. ファイルシステムアクションの改善

11. DAS設定の「レガシー Java Access Bridge利用」の中止

12. ロボットのリストボックス検索

13. ロボットのカスタムアクションのタイムアウトについて

1. スタンドアロンロボット (独立実行) p01

RPA 11.5.0 以降、**ロボット**(旧 Desktop Automation ロボット)はスタンドアロンで実行できるようになりました。

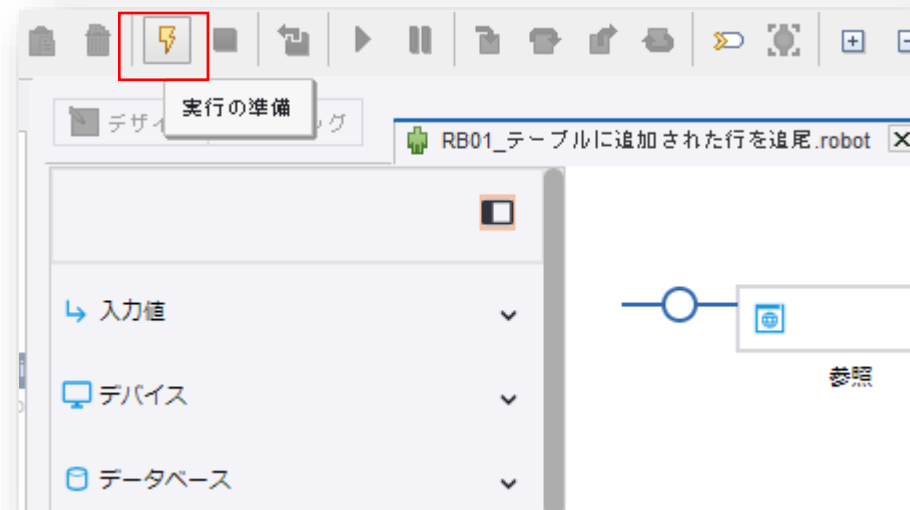
従来のバージョンで **Desktop Automation Service**、Chromium、Built-in-Excel機能を利用する

ロボットを「開発・実行」するために、**ベーシックエンジンロボット**を介する必要がありました。

尚、11.5.0で作成した**ロボット**は**ベーシックエンジンロボット**から呼び出すこともできます。



従来 ロボットの開発・実行方法



11.5からロボットが単独で実行できるようになりました。

1. スタンドアロンロボット (独立実行) p02

📌 **ロボット**の独立実行に伴うメリットは以下となります。

- ・ **開発スタート・テスト実行までの操作が簡易になりました**

Design Studioから**ロボット**の新規作成・既存ロボットを開くだけで、開発もしくは実行テストがすぐできるようになり、作業コストが削減できます。

従来のバージョンでは、実行テスト、フル機能で開発するために、**ベーシックエンジン**を経由する必要がありました。

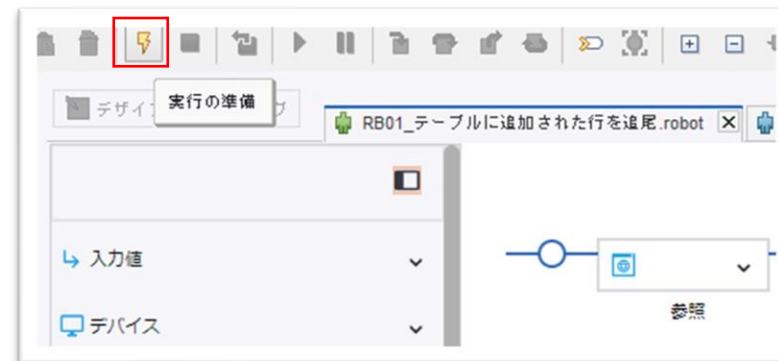
- ・ **Management Console, Kappletsからの実行**

Management Console経由してRoboServerでの動作確認、及び運用実行は直接**ロボット**から起動できるようになりました。

※ スタンドアロン**ロボット**のみは起動できます。

- ・ **学習コスト**

ロボットの優れた Chromium, Built In Excel, メール操作機能、カスタムアクションコネクタを利用するために、**ベーシックエンジンロボット**の学習しなくても、**ロボット**の学習だけで完結できます。



1. スタンドアロンロボット (独立実行) p03

🤖 ロボットがスタンドアロンになっている場合、コンテキストメニューから実行オプションが表示されます。

<input type="checkbox"/>		フォルダ	名前	タイプ	バージョン...
<input type="checkbox"/>	⋮	BasicEngine/	rl1_17_caller	ベーシック エンジン ロボット	11.5.0.1
<input type="checkbox"/>	⋮	RL2/	rl2_00_Caller	ベーシック エンジン ロボット	11.4.0.3
<input type="checkbox"/>	⋮	RL2/	rl2_00_Callee	ロボット	11.4.0.3
<input type="checkbox"/>		フォルダの設定	rl2_17_returnCallee	ロボット	11.5.0.1
<input type="checkbox"/>		ダウンロード	rl2_18_standCef	ロボット	11.5.0.1
		ドキュメントを生成			
		Design Studio で開く			

スタンドアロンではないケース

<input type="checkbox"/>		フォルダ	名前	タイプ	バージョン...
<input type="checkbox"/>	⋮	BasicEngine/	rl1_17_caller	ベーシック エンジン ロボット	11.5.0.1
<input type="checkbox"/>	⋮	RL2/	rl2_00_Caller	ベーシック エンジン ロボット	11.4.0.3
<input type="checkbox"/>	⋮	RL2/	rl2_00_Callee	ロボット	11.4.0.3
<input type="checkbox"/>	⋮	RL2/	rl2_17_returnCallee	ロボット	11.5.0.1
<input type="checkbox"/>	⋮	RL2/	rl2_18_standCef	ロボット	11.5.0.1
		すぐに実行			
		フォルダの設定			
		スケジュールの作成			
		API			
		REST			
		SOAP			

スタンドアロンのケース

1. スタンドアロンロボット (独立実行) p04

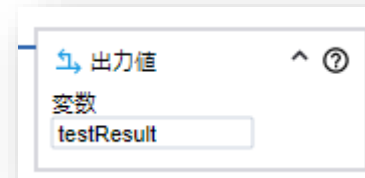
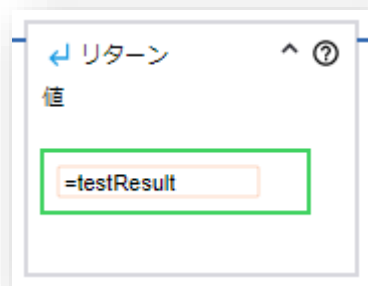
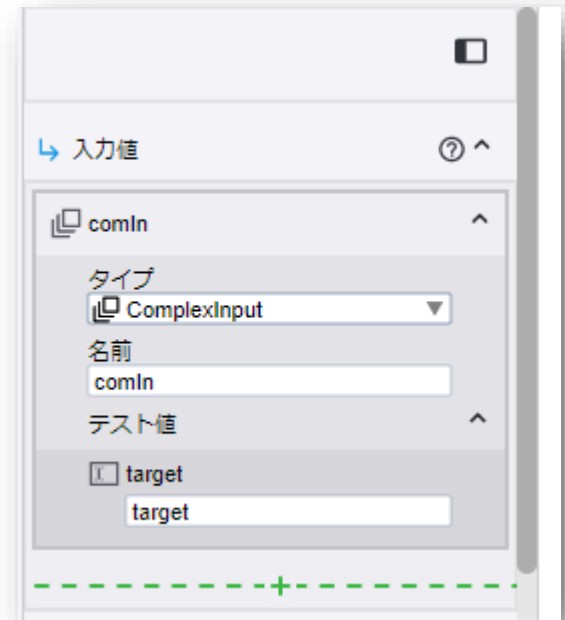
11.4以前の ver.で作成したロボットは11.5のMCからスタンドアロンとして実行するには、以下の内容をご参照ください。

・Design Studio 11.5でロボットを開き、ロボットファイルを 11.5で保存する必要があります。

・**必須条件**：入力値のセクションに、シンプルタイプ変数がないことを確認します。入力値にシンプルタイプ変数が存在すると、スタンドアロンとしてMC, Kappletsが認識しないため、実行することができません。

・任意条件：入力値が必要な場合、コンプレックスタイプ変数をご利用下さい。

・任意条件：リターンステップは残しても問題ないですが、スタンドアロンでロボットを実行する場合、リターンステップを出力値ステップに変更することをお勧めします。



1. スタンドアロンロボット (独立実行) p05

•Ver11.5~~ロボット~~のスタンドアロン実行状況は以下になります。

入力値	MC							Kapplets	
	コンテキストメニュー> すぐに実行	Schedule	トリガー	メールトリガー	API	REST	SOAP	Kappletより実行	Scheduleより実行
無	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Simpleタイプ変数	×	×	×	×	×	×	×	×	×
一つのみのComplexタイプ変数(LongText型変数のみ) ※ 1	×	○	○	○	○	○	○	○	○
Complexタイプ変数	×	○	○	×	○	○	○	○	○

※1 入力値は以下の形です。

デザイン

デバッグ

紹介

MailContent.type

属性:	名前	ストレージ名	属性の種類	レコードフィールド	タイプ
	Content		Long Text		Text

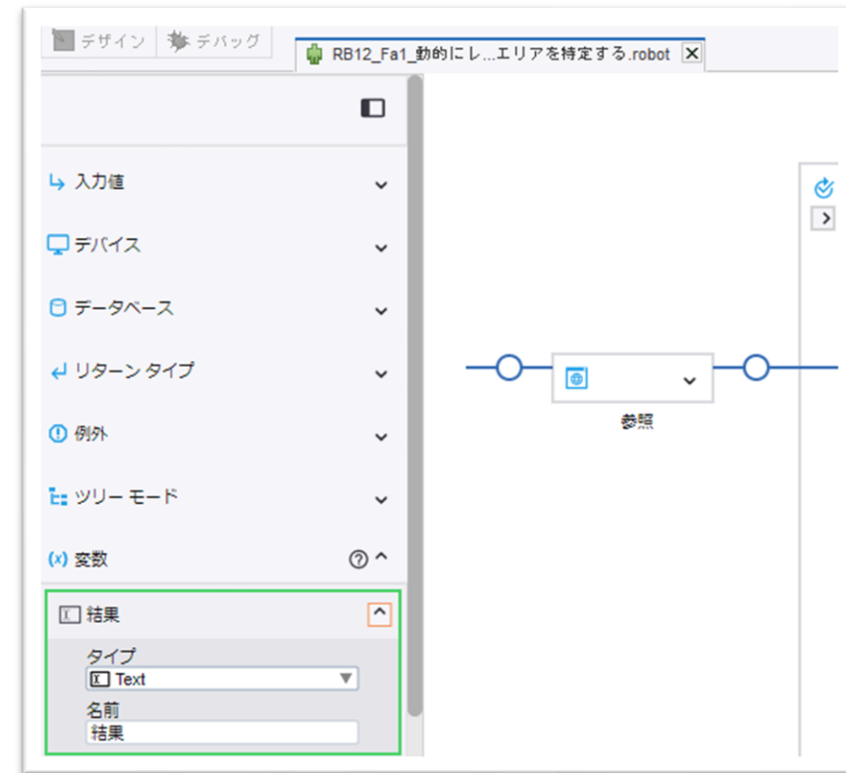
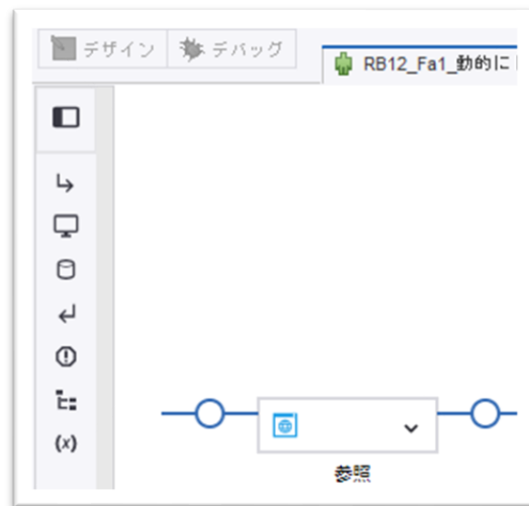
2. ロボット の定義パネル p01

Design Studioでロボットを編集する際の、左側の定義パネルのUI/UXが改善されました。

- 定義パネルの表示/非表示

ロボット全体を広くするため、こちらのパネルを隠せれるようになりました。

詳細の使用方法は[こちらのリンク](#)をご参照下さい。

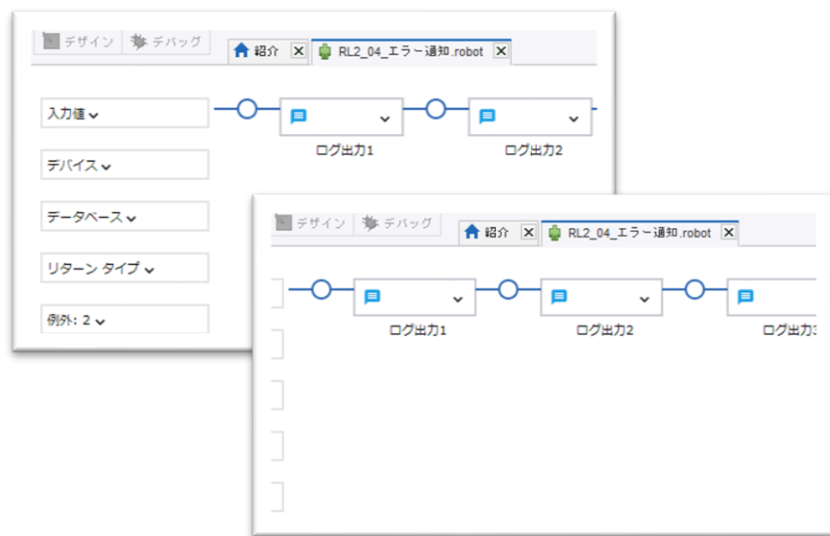


2. ロボット の定義パネル p02

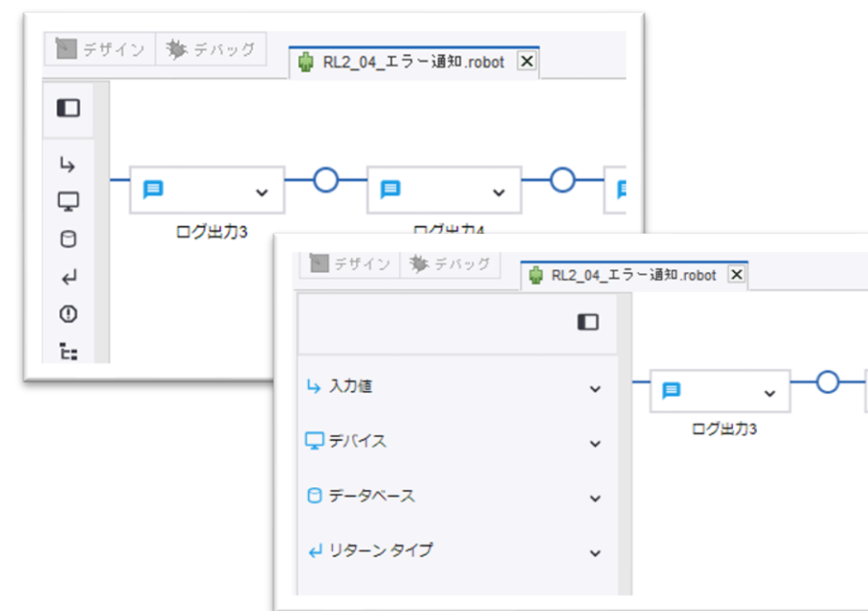
Design Studioでロボットを編集する時、左側の定義パネルのUI/UXが改善されました。

- 定義パネルの場所が固定された

従来のバージョンでは、ステップ数が多いロボットの右側に移動すると、定義パネルが見えなくなることがありますが、11.5からではロボットフローのどの場所でも確認することができます。11.5からは処理が長いロボットを編集する時、「入力値、デバイス、データベース、変数...」の修正が楽になります。



11.4.0



11.5.0

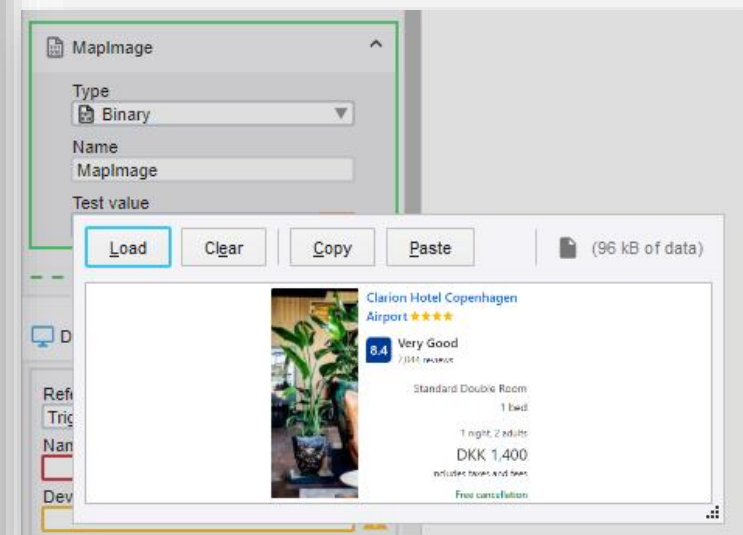
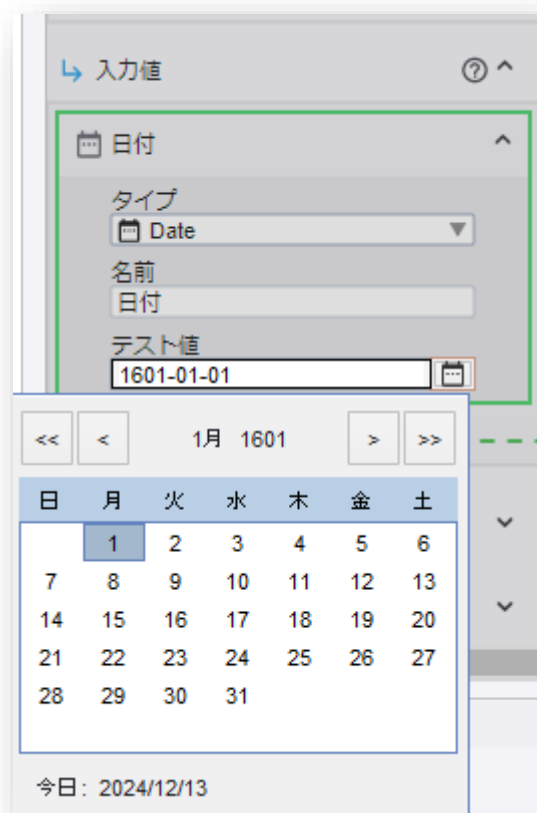
2. ロボット の定義パネル p03

Design Studioでロボットを編集する時、左側の定義パネルのUI/UXが改善されました。

- ・ **定義される変数の設定UXが改善されました。**

入力値にはテスト値の設定ができるようになりました。この値はDesign Studioでテスト実行「実行の開始」の際に使われます。ベーシックエンジンのようにテストの時は本番データを利用せずに、固定な値で行えます。

変数タイプのアイコンが追加されました。



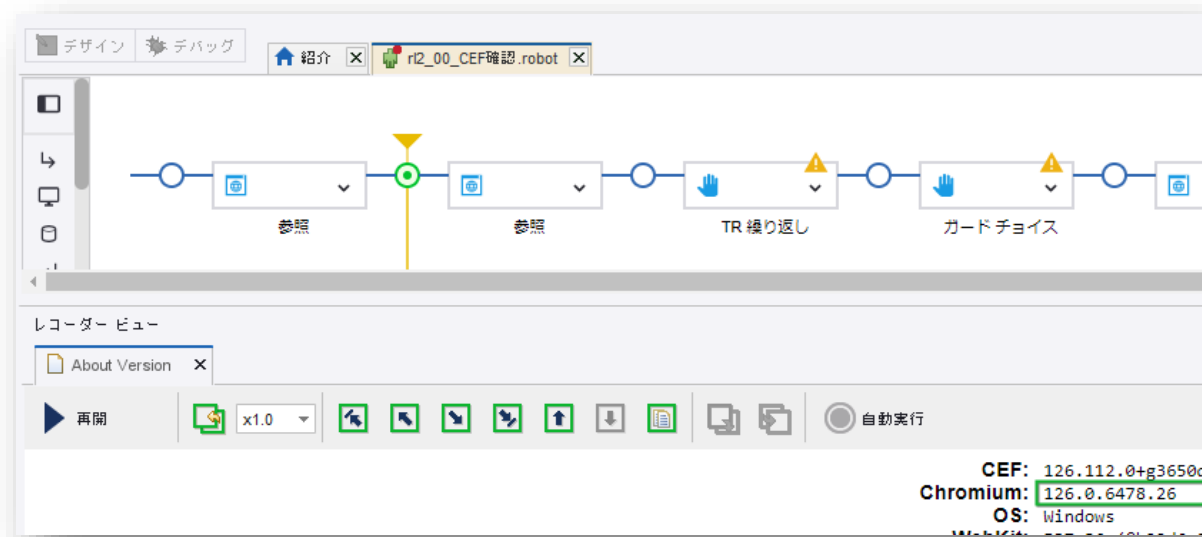
3. ロボット用の「実行の準備」ボタン p01

「実行の準備」ボタンはスタンドアロンロボットのDesign Studio編集画面メニューに追加されました。

- ・ **ロボットのみ開いて、すぐ実行できる**

ベーシックエンジンロボットを経由せずに、ロボットから直接実行することができるようになりました。

以下の例は Chromiumブラウザを利用しているロボットの動作結果です。



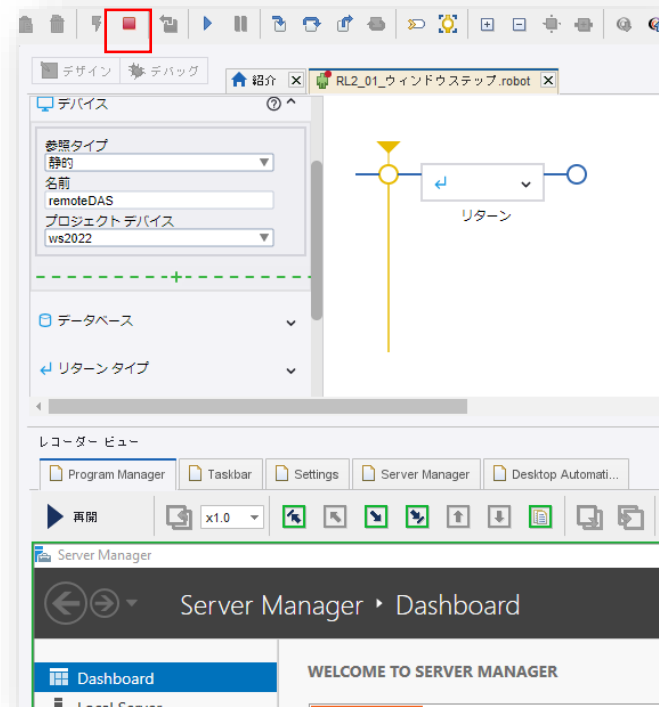
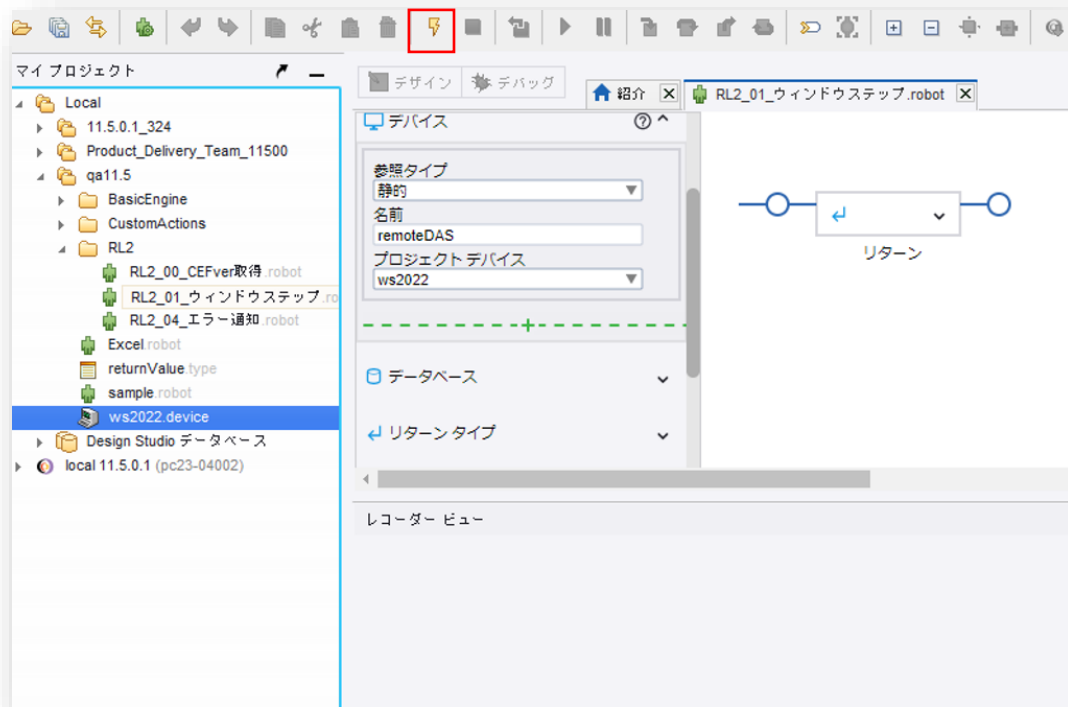
3. ロボット用の「実行の準備」ボタン p02

「実行の準備」ボタンはスタンドアロンロボットのDesign Studio編集画面メニューに追加されました。

- DAS処理のロボットでも、「実行の準備」を押下後、対象端末のDASに接続します。

ベーシックエンジンロボットを経由せずに、ロボットから対象端末のDASに直接繋ぐことができます。

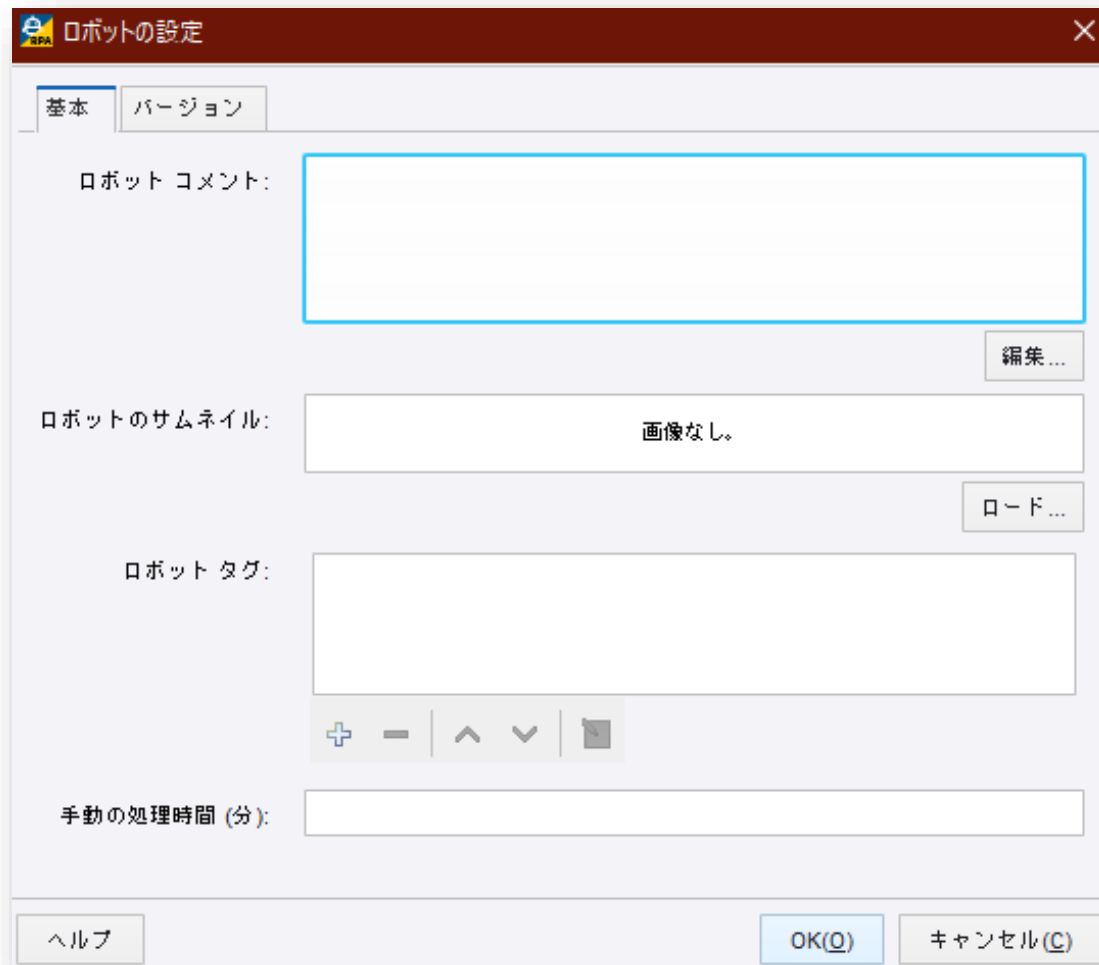
「実行の準備」を押下することで接続処理が行われます。



4. ロボット設定の機能 p01

ベーシックエンジンロボットと同じように、**ロボット**に「**ロボット**の設定」機能が付けられました。

- 開発されているロボットのコメント、タグ、等の属性を設定することができます。



The screenshot shows a dialog box titled "ロボットの設定" (Robot Settings) with a close button (X) in the top right corner. The dialog has two tabs: "基本" (Basic) and "バージョン" (Version). The "基本" tab is selected. It contains the following fields and controls:

- ロボット コメント:** A large text area for entering the robot's comment.
- 編集...** A button to edit the comment.
- ロボットのサムネイル:** A field showing "画像なし。" (No image).
- ロード...** A button to load an image.
- ロボット タグ:** A text area for entering the robot's tag.
- + - ^ v** A set of icons for tag management: add, remove, up, down, and a trash icon.
- 手動の処理時間 (分):** A text field for manual processing time in minutes.
- ヘルプ** A button at the bottom left.
- OK(O)** and **キャンセル(C)** buttons at the bottom right.

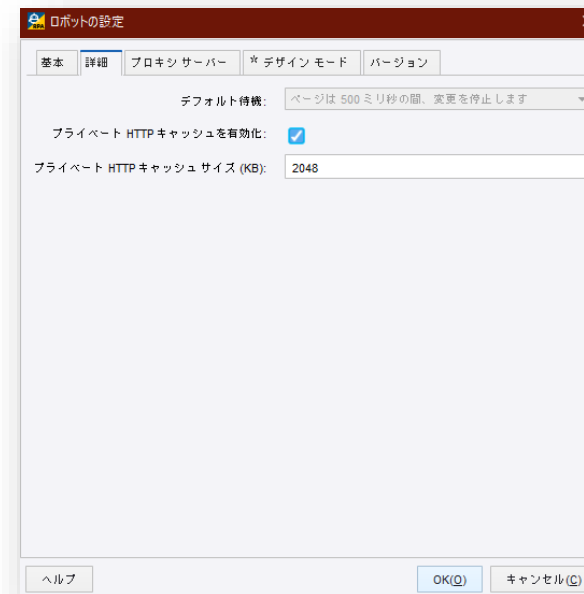
4. ロボット設定の機能 p02

ベーシックエンジンロボットの方では「詳細」「プロキシサーバー」「デザインモード」がありますが、**ロボット**では不要です。

- **ロボット**のプロキシサーバーはMC/DS/組込Chromiumブラウザのプロキシ設定を利用します。その中で、組込Chromiumブラウザの設定を優先して利用します。
- 詳細タブについては**ベーシックエンジンロボット**用の設定で、**ロボット**に対しては不要です。
- **ロボット**の実行モードは一つしかないため、「デザインモード」の設定は不要です



ロボット

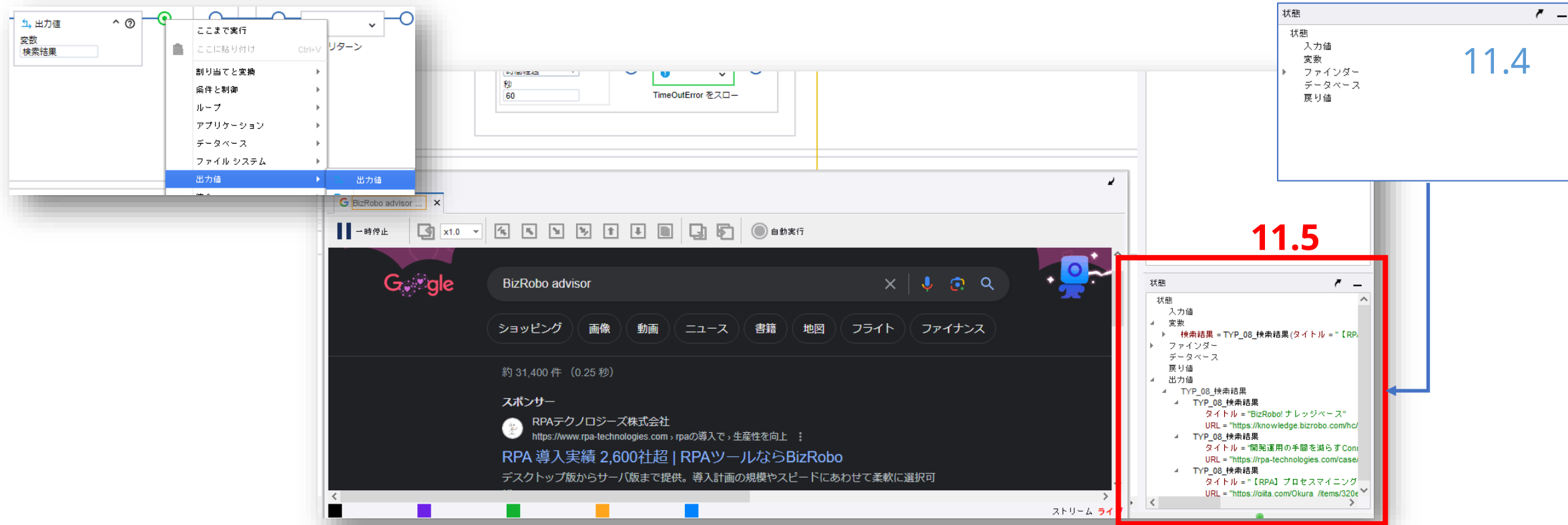


ベーシックエンジンロボット

5. ロボットの「状態」ペインの改善 p01

DSの**ロボット**開発するUIの右側にある「状態」ペインが改善されました。

- ・ **出力値**と言う枠が追加され、コンプレックスタイプの変数の値を一覧に出力することができます。
- ・ 出力するために、「**出力値**」ステップを利用します。

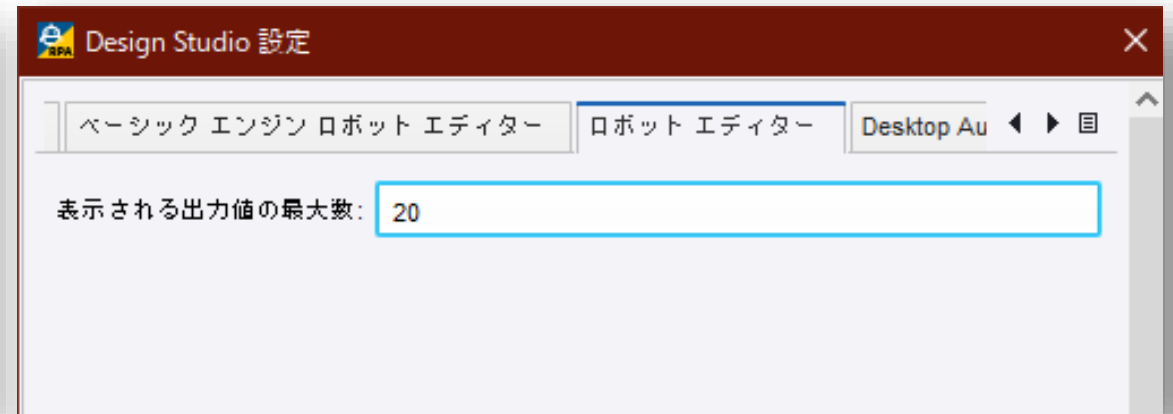
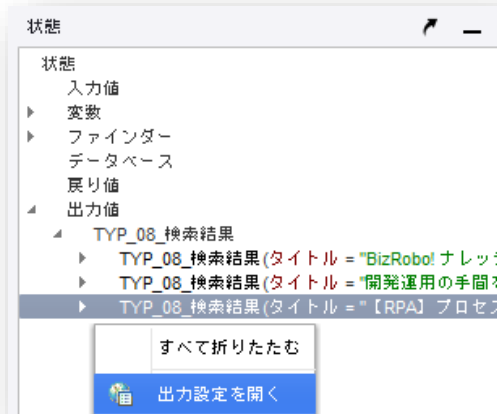


5. ロボットの「状態」ペインの改善 p02

・ロボットの出力値のイメージは **ベーシックエンジンロボット** のデバッグの時、「値返却」ステップで現状の実行状態を一覧に表示する機能と類似しています。



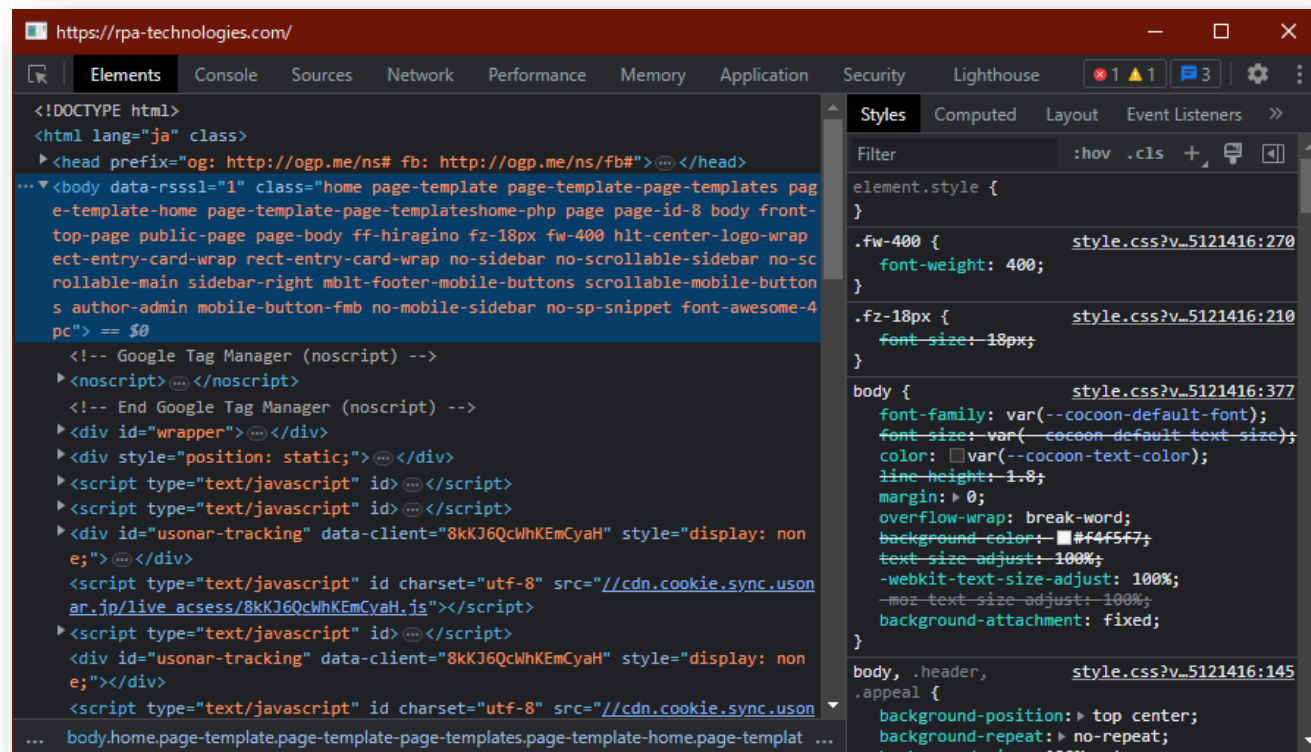
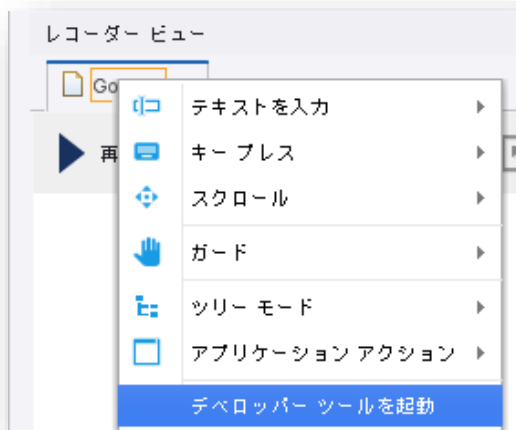
・出力値の表示最大数は DSの
設定 > ロボットエディタにて
行えます。「状態」ペインからは
右クリックし「出力設定を開く」
から設定画面に遷移すること
ができます



6. Chromium組込ブラウザ(CEF)の開発者ツール簡単起動

・**ロボット**でChromium組込ブラウザ(CEF)を操作する際に、レコーダビュータブのコンテキストメニューから、開発者ツールを起動できるようになりました。

従来の起動方法と比べて大分楽になりました。



7. Chromium組込ブラウザ(CEF)のアップデートについて

- ・ 11.5から**ロボット**が利用するChromium組込ブラウザ(CEF)のバージョンは 126になりました。

```
chrome://version/

CEP: 126.112.0+g3650dd7+chromium-126.0.6478.26
Chromium: 126.0.6478.26
OS: Windows
WebKit: 537.36 (@b99d6c9be74be489f45cde2867e8f696d8925c19)
JavaScript: 12.6.228.9
User Agent: Mozilla/5.0 (Windows NT 10.0; Win64; x64) AppleWebKit/537.36
            (KHTML, like Gecko) Chrome/126.0.0.0 Safari/537.36
Command Line: "C:\Program Files\BizRobo Basic
              11.5.0.5\nativelib\hub\windows-
```

8. 電子メール系のステップの改善 p01

・ **ロボット**で電子メールフォルダを開いた後に

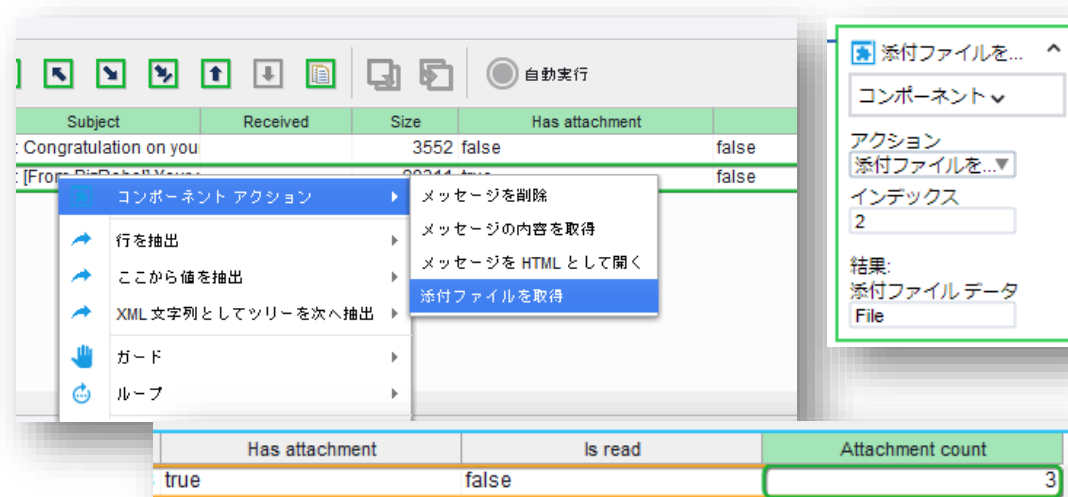
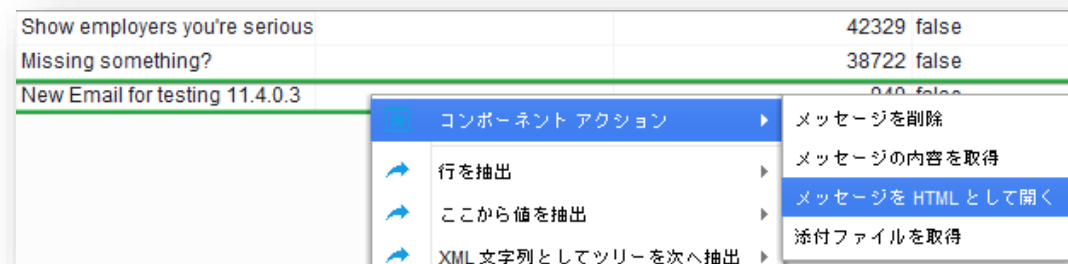
1) 各メールにてコンポーネントアクションからメッセージをHTMLとして開くことは可能になりました。

メールの内容は**ロボット**内のChromiumブラウザーにて表示されます。

2) その他、コンポーネントアクションから、メール添付ファイルをバイナリ変数に抽出することもできるようになりました。

「添付ファイルを取得」ステップではインデックスでファイル一覧から取得します。

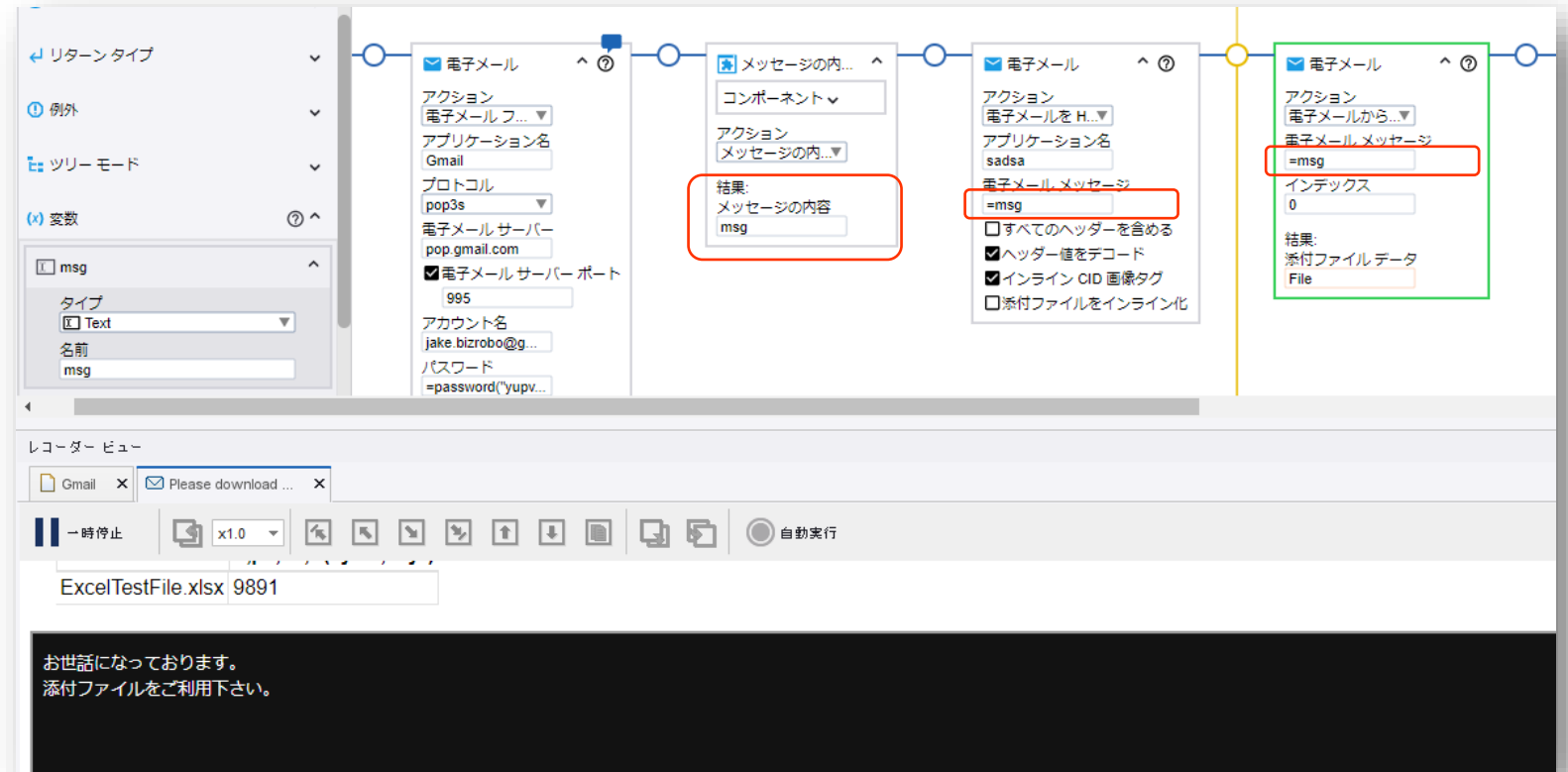
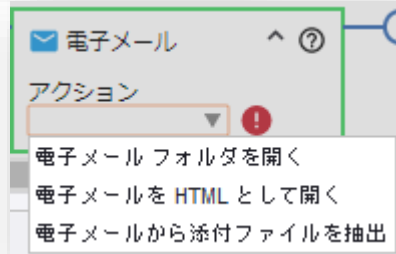
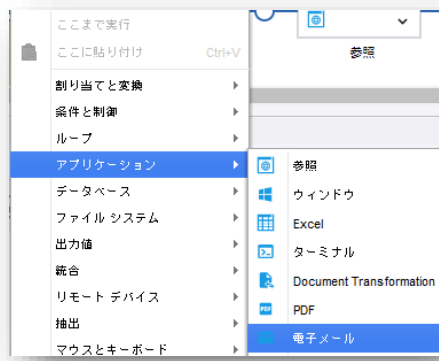
インデックスは [0]から[ファイルの合計数 - 1]まで指定することができます。



8. 電子メール系のステップの改善 p02

・3) コンポーネントアクションと同じように、電子メールステップに「電子メールをHTMLとして開く」と「電子メールから添付ファイルを抽出」アクションもあります。

実際、これらのステップを利用するために、全スライドで表示した「メッセージの内容を取得」コンポーネントアクションの結果から利用する形になります。



9. Built In Excel の改善

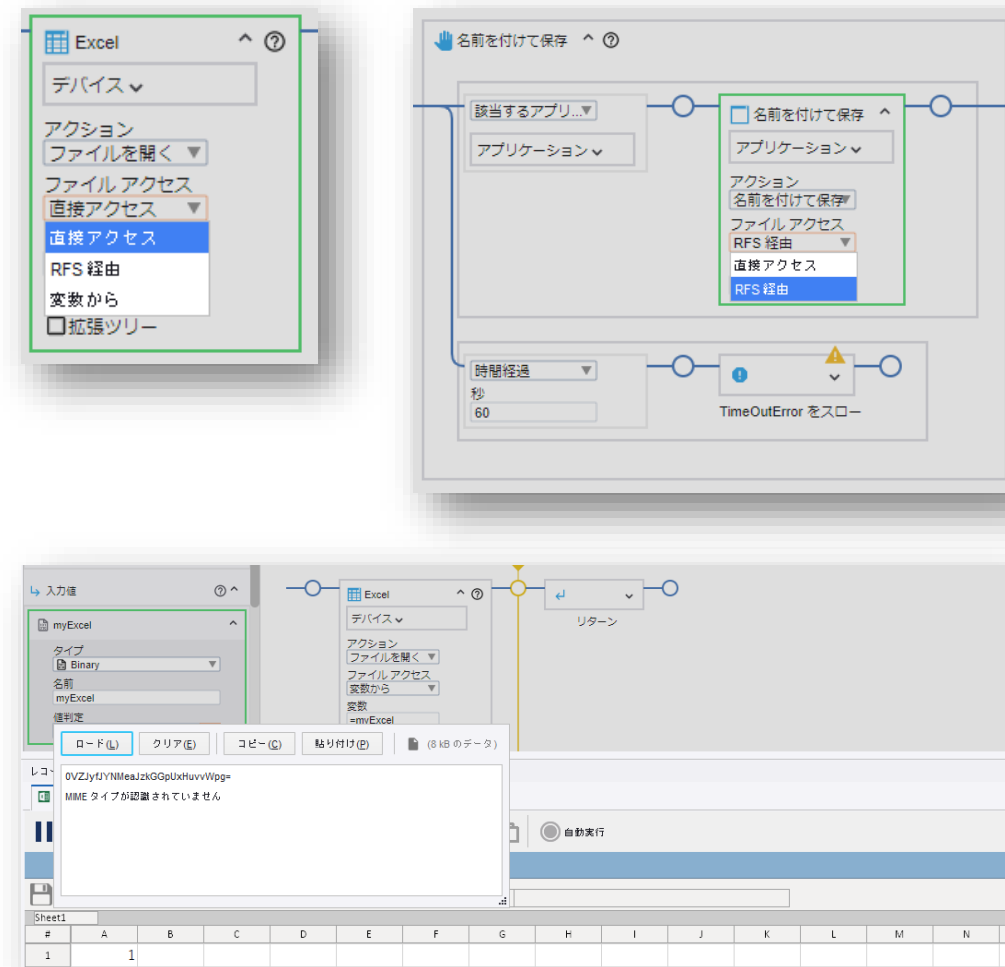
・ **ロボット**のBuilt In Excel機能が改善されました。

1) Built in Excelは RFSへファイルの読取/書込ができるようになりました。

2) ロボット上でExcelを変数からBuilt In Excelで開くこともできるようになりました。

例えば、メールの添付ファイルがExcelの場合、その添付ファイルをバイナリ変数に格納し、Excelステップを利用してロボット上で開く・編集することができます。

逆に、バイナリ変数に値を保存したい場合は「変数に保存」ステップを利用します。



10. ファイルシステムアクションが改善されました

・**ロボット**のファイルシステムアクション機能が改善されました。

「ロック ステータス」を確認する機能が追加されました。

「ローカルデバイス」もしくは「リモートDAS」のどちらのケースのみ利用可能になります。Windows OSであることが必要です。

■ 返却される値は整数の値 (Integer)です。

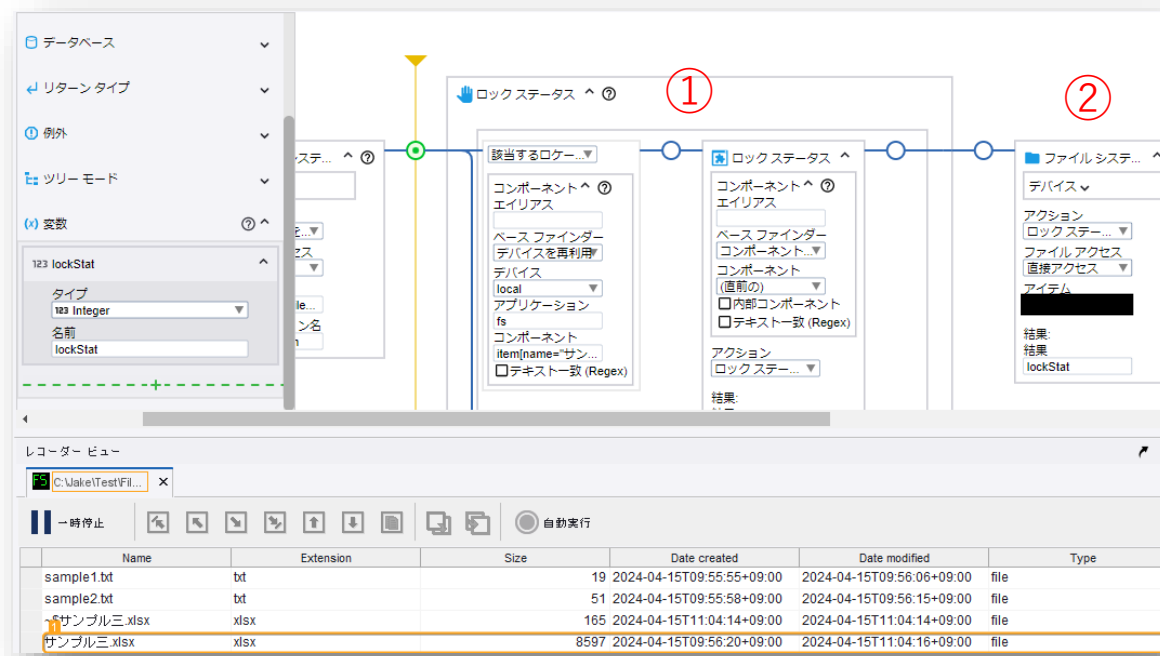
1: ファイルが存在し、ロックされていない

0: ファイルが存在し、ロックされている

-1: ファイルが存在しない

■ 利用方法

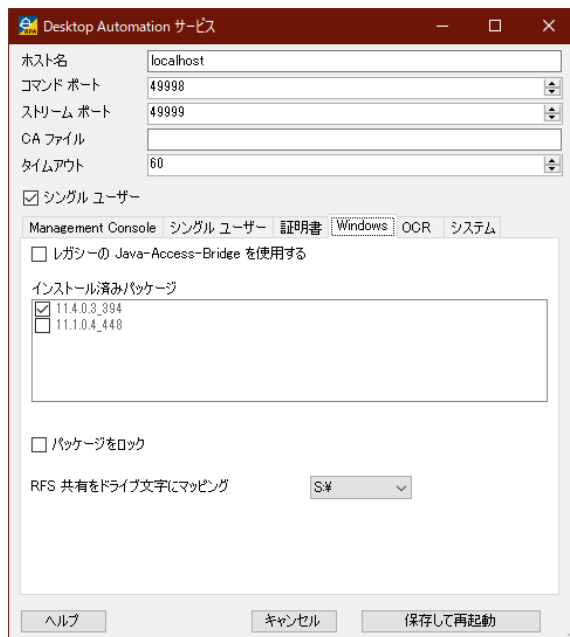
ファイルシステムで特定のフォルダのファイルを一覧でレコーダビューにて表示後、コンポーネントアクションで①**ロックステータス**を確認することができます。もしくは、直接「ファイルシステム アクション」の「②**ロックステータス**」アクションを利用することで同じ操作が行えます。



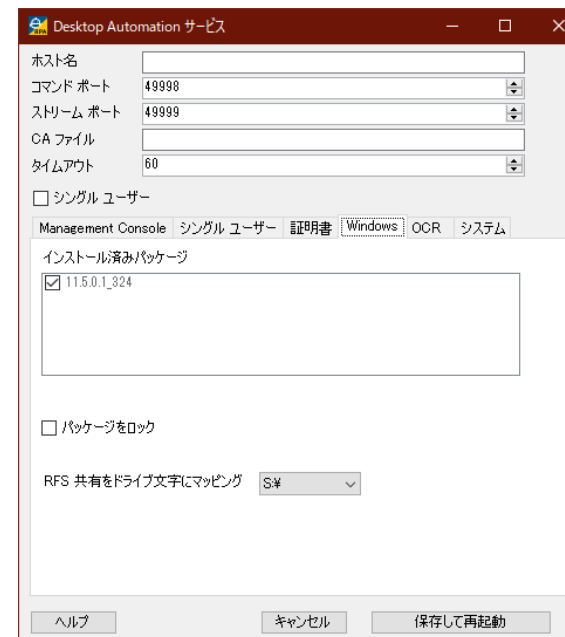
11. DAS設定の「レガシー Java Access Bridge利用」の廃止

- 従来の Desktop Automation Service (DAS)の「Windows」タブでは「レガシーの Java-Access-Bridge(JAB)を使用する」が廃止になりました。

Ver. 11.3の DASは 64bitになり、レガシーJABに64bitのモジュールがないため、レガシー JABは実際使用できなくなりました。



V11.4

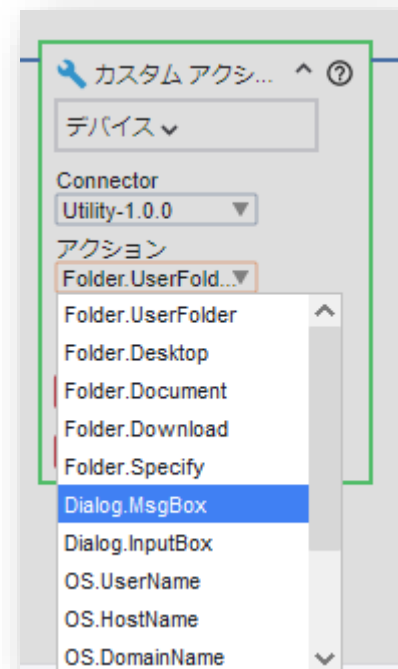


V11.5

12. ロボットのリストボックス検索

Design Studioでロボットを編集する時、ステップの設定でリストボックスから項目を選択する際に、選択項目名を手打ちすることで一覧からその項目に飛び出すことができます。

Ver. 11.5.0では英語の項目のみこちらの機能が使えます。



Utilityコネクタのアクションを選ぶとき、実際「d」をキーボードから打つと、「Dialog.MsgBox」が選択されます。

13. ロボットのカスタムアクションのタイムアウトについて

ロボットのカスタムアクションステップの実行タイムアウト時間が設定できるようになりました。

今まで、こちらのデフォルト値は 240秒になります。

変更するには、BizRoboのインストールフォルダ¥bin¥common.confファイルを編集します。

■コマンド：

```
wrapper.java.additional.<nr>=-Dhub.action.connector.seconds=<timeout>
```

■例：10分(600秒)に変更

```
wrapper.java.additional. 15=-Dhub.action.connector.seconds=600
```

Design Studio ベーシックエンジンロボット(旧 Web ロボット)

目次

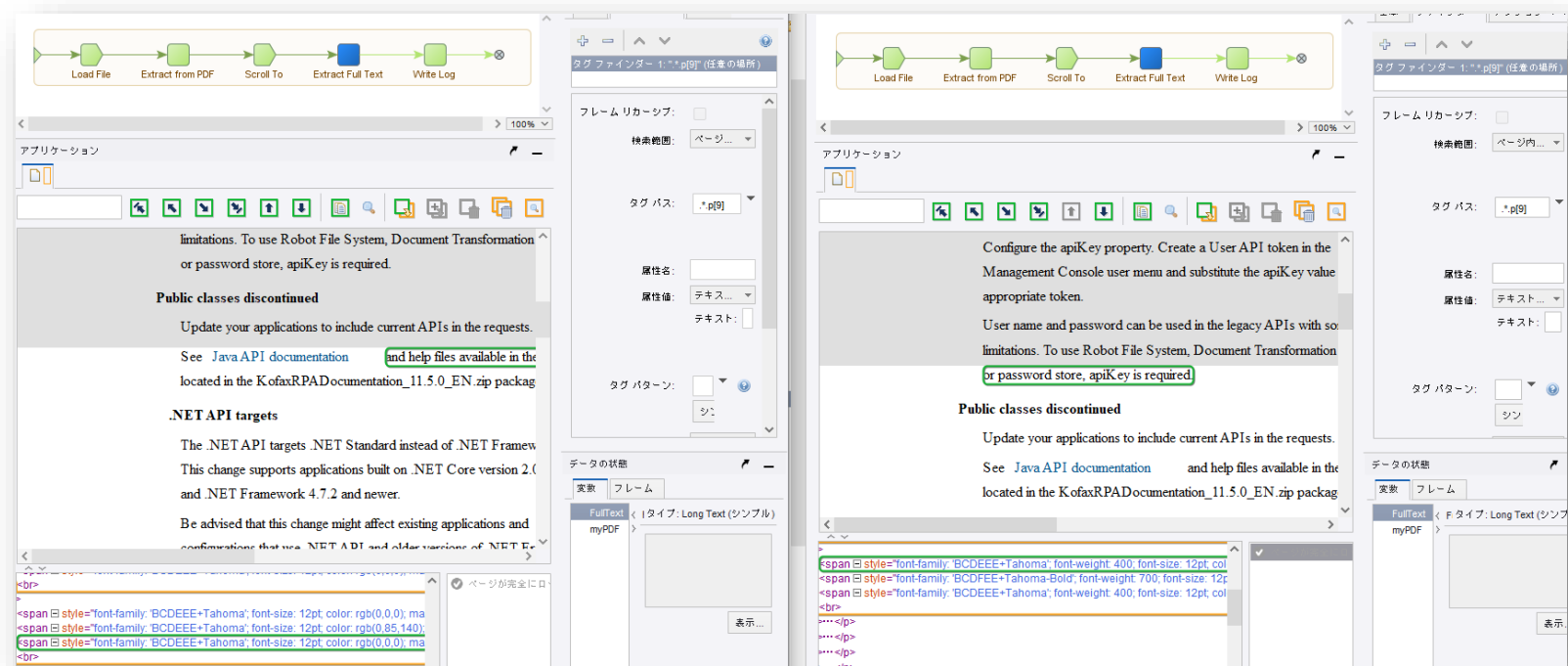
【Design Studio】

ベーシックエンジンロボット(旧 Web ロボット)

1. PDF系のステップのアップグレード
2. Javascriptエンジンのコンバーターのアップグレード
3. ライブラリプロトコルの非推奨(deprecated)
4. クラシックブラウザーの廃止(discontinued)
5. 「Flash コンテンツ抽出」ステップの廃止(discontinued)
6. 「電子メールから抽出」ステップの内部モジュール変更

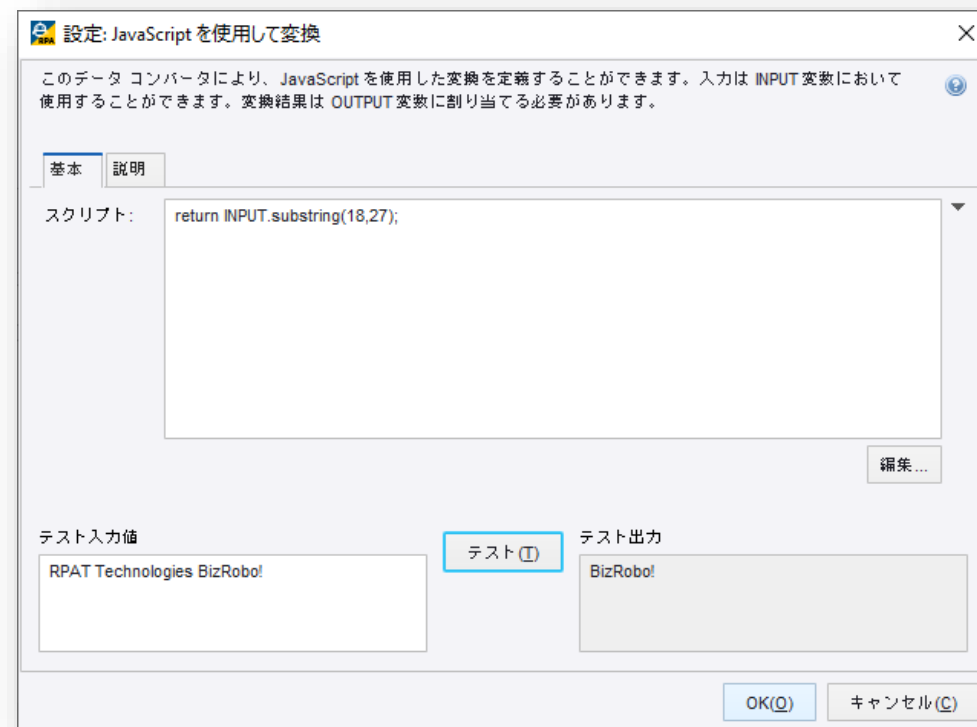
1. PDF系のステップのアップグレード

- Apache PDFBoxライブラリはメジャーバージョンにアップグレードされたため、**ベーシックエンジンロボット(BER)**の「PDFから抽出」ステップに影響が出る可能性があります。
- Ver11.5 の**BER**で生成されるPDFファイルのHTMLは従来の ver.と比べ、段落(paragraphの pタグ)とスペースはより多く生成されています。そのため、既存のファインダーに影響される可能性がありますので、必ずロボットのチェックをしてください。
- 右から左向かっている文字タイプ(例:アラビア語)の表示順番が間違っている可能性がありますので、その場合は**ロボット**のPDF機能をご利用下さい。
- 右の画像の例は 11.4(左)のPDF抽出ロボットを 11.5(右)で実行する際に、既存ファインダーが別の箇所を指していることが確認できます。



2. Javascriptエンジンのコンバーターのアップグレード

- 「JavaScriptを使用して変換」のコンバーターは11.4以前にクラシックエンジンの Javascriptを利用しましたが、11.5からはWebkitの標準 Javascriptエンジンを使い、[ベーシックエンジンロボット](#)の「JavaScript実行」ステップと同じようになりました。
- こちらの移行に伴って、既存「JavaScriptを使用して変換」のコンバーターの挙動に少し変更を与える可能性があります。その場合、適切にコードを一部調整する必要があります。
- 詳細は[こちらのナレッジ](#)をご参照下さい。



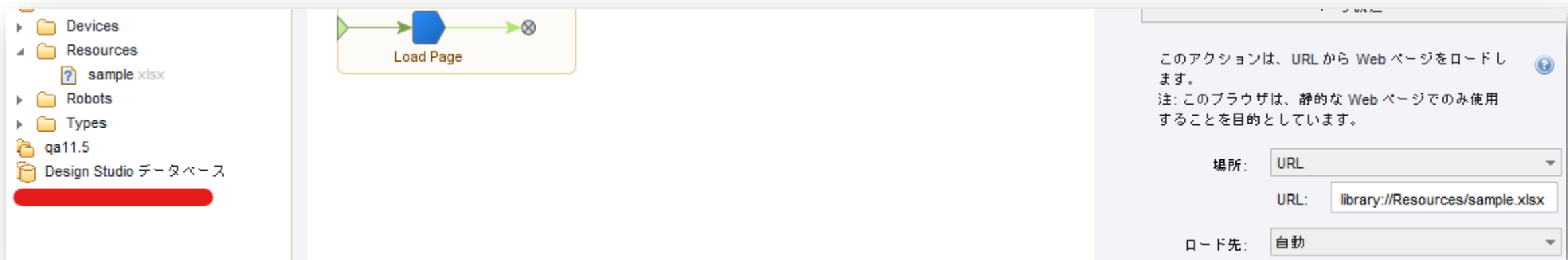
3. ライブラリプロトコル機能は非推奨となりました

プロジェクトのライブラリ内のファイルを参照するためのライブラリ プロトコルはver. 11.5から非推奨になりました。

従来のバージョンでは該当機能はDesign Studioのみ使用可能ですので、MCにロボットをアップロードした後に利用できないため、既存のロボットに影響は出ません。

Ver. 11.5でのご利用は可能ですが、以下の代案を**ベーシックエンジンロボット(BER)**に適用することを推奨いたします。

- Robot File System を代わりに利用
- ファイルフルパスもしくはWebサーバー上に格納されるファイルを利用



4. クラシックブラウザの廃止

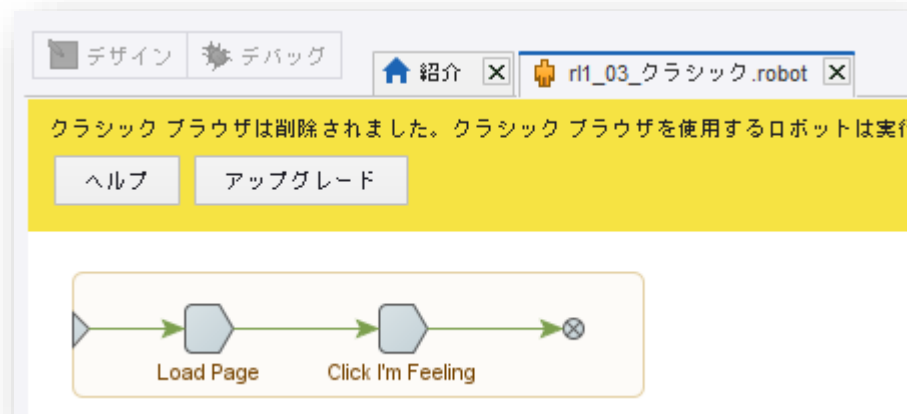
Ver. 11.5.0.xから、クラシックブラウザは利用できなくなりました。

既存のクラシックロボットは ver.11.5のDesign Studioで開けますが、実行はできません。

MC上でv11.5 RSのみ接続されるとき、実行するとエラーが発生します。

- 元のクラシックブラウザロボットをベーシックエンジンロボットにアップグレードしてください。

[参照ナレッジ](#)



エラー @ 2024-04-23 15:52:36.837

実行 ID: -1-3-5bed417b90
ロボット名: r11_03_クラシック
ロケーションコード:
場所: (特定の場所がありません)
ステップ名:
メッセージ: ロボットが無効です。クラシック ブラウザを使用するベーシック エンジン ロボットは実行できません。
メッセージの詳細:

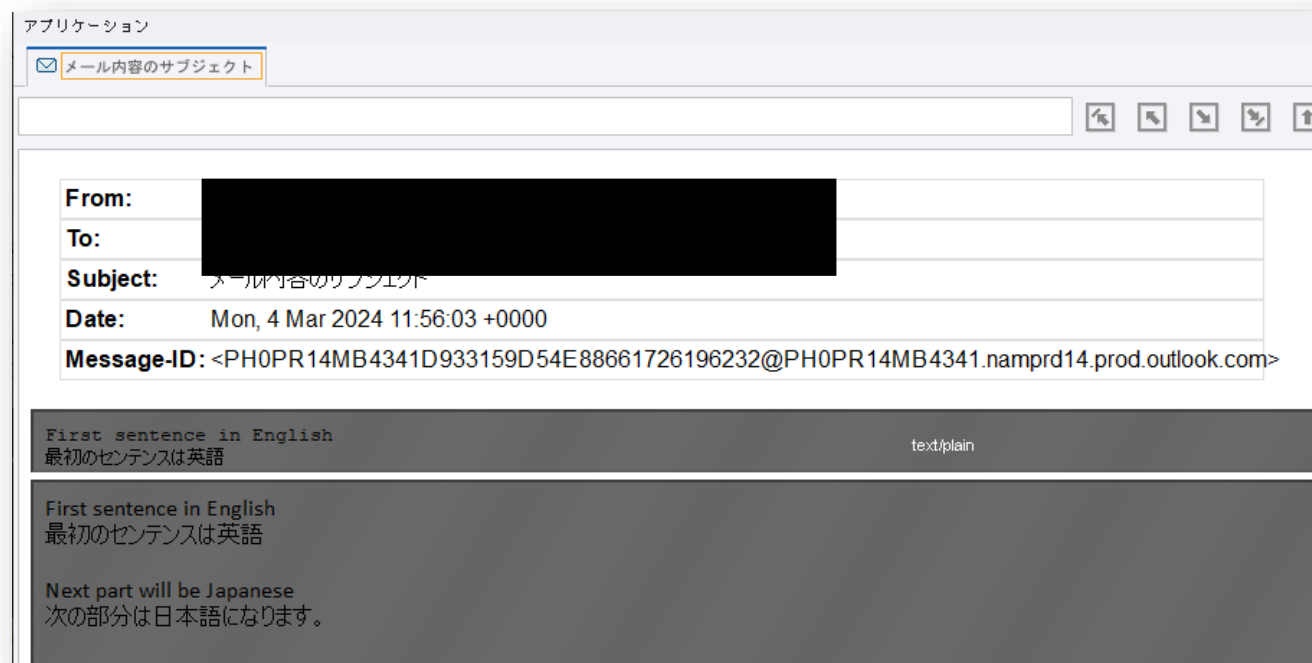
キャンセル

5. 「Flash コンテンツ抽出」ステップの廃止

[Adobe社からのFlashサポートが終了](#)したため、Ver. 11.5 **ベーシックエンジンロボット**では「Flash コンテンツ抽出」ステップが利用できなくなりました。

6. 「電子メールから抽出」ステップの内部モジュール変更

- ・ **ベーシックエンジンロボット** のメールアクションの抽出機能の HTML parser がアップデートされたため、既存のステップの抽出結果の変更可能性があります。
詳細は [こちらのナレッジ](#) をご参照ください。



Management Console

目次

【Management Console】

1. メッセージの投稿
2. 既存スケジュールの開始/停止が簡単に行える
3. サービス認証の機能改善
4. RoboServerクライアントタイプのクラスター
5. ユーザーAPIトークン
6. OAuth アプリケーションのユーザーの削除
7. RoboServerのリソース調整機能
8. 最大同時ロボット数とキュー数の変更

1. メッセージの投稿

・ **ホームメッセージ投稿**機能が追加され、全員へのお知らせが可能になりました。「設定された有効期限」の日付になると、投票がMCから削除されます。



2. 既存スケジュールの開始/停止が簡単に行える

・ **スケジュール**一覧から登録済みのスケジュールを簡単に開始、もしくは実行中のスケジュールを簡単に停止することができるようになりました。



11.4



11.5

3. サービス認証の機能改善

サービス認証機能にRoboServer、RFSが追加されました。
基本認証 (ID+Pwd)を使わずに、シークレットキーだけで
RoboServer, RFSはMCと接続することができます。

そして、UI上、以下の名前が変更されました：

- ・ Oauthサーバー → サービス認証
- ・ クライアントシークレット → 共有シークレット

Management Console 管理 > サービス認証

サービス認証

	クライアントの名前	作成済み	共有シークレット
⋮	Kapplet	Friday, December 1, 2023 at 11:09 AM GMT+9	📄 CkV1sPcbmO
⋮	RoboServer	Friday, December 1, 2023 at 11:09 AM GMT+9	📄 IvugmqXNIZk
⋮	DAS	Friday, December 1, 2023 at 11:09 AM GMT+9	📄 CgDuq58uDf
⋮	シンクロナイザー	Friday, December 1, 2023 at 11:09 AM GMT+9	📄 9YYInh66DEu
⋮	RFS	Friday, December 1, 2023 at 11:09 AM GMT+9	📄 42ew0Y76OIx

4. RoboServerクライアントタイプのクラスター

・従来は、ソケット通信でMCはRSに通信する際、RS端末の【ホスト/IPアドレスとポート】で接続する仕組みしかありませんでした。バージョン11.5からはRS端末のFirewallのポート(50000)を開けずに、RSからMCへHTTP(S)リクエストで繋ぎ、その接続で通信する新たな仕組みが追加されました：**クライアント系クラスター**

・従来のソケット通信タイプに関してはそのままご利用いただけます。MCからRSの【ホスト/IPアドレスとポート】に届かない環境においては、クライアント系クラスターのご利用を推奨します。

クライアントとしての RoboServer Management Console との HTTP(S) 接続を作成します。この接続タイプは、高可用性モードではサポートされていません。



Cloud 上MC とオンプレ Roboserver の通信がVPN介せずに運用が可能になりました。

4. RoboServerクライアントタイプのクラスター

- MCの 管理 > RoboServer > 「+」(クラスター追加)ボタンから新しいクラスターの作成が行えます。
- クラスター作成ダイアログからクラスター接続タイプを選択します
 - 「サービスとしての RoboServer」: 従来のソケット通信の方法。MCは HTTPで構成されている。
 - 「サービスとしての RoboServer(SSL)」: 従来のソケット通信の方法。MCは HTTP^Sで構成されている。
 - 「クライアントとしての RoboServer」: **新しく追加されたHTTP(S)通信方法**。(制限事項は 11.5のリリース時の[関連ナレッジ一覧](#)からご確認下さい)



クラスターの追加

名前 *	<input type="text"/>
名前	
接続タイプ	サービスとしての RoboServer
サービスとしての RoboServer	RoboServer はサービスとして機能します。Management Console は、RoboServer の登録後に接続を開始します。
サービスとしての RoboServer (SSL)	RoboServer はサービスとして機能します。Management Console は、RoboServer の登録後に SSL 接続を開始します。
クライアントとしての RoboServer	Management Console との HTTP(S) 接続を作成します。この接続タイプは、高可用性モードではサポートされていません。
ライセンス *	本番

5. ユーザーAPIトークン

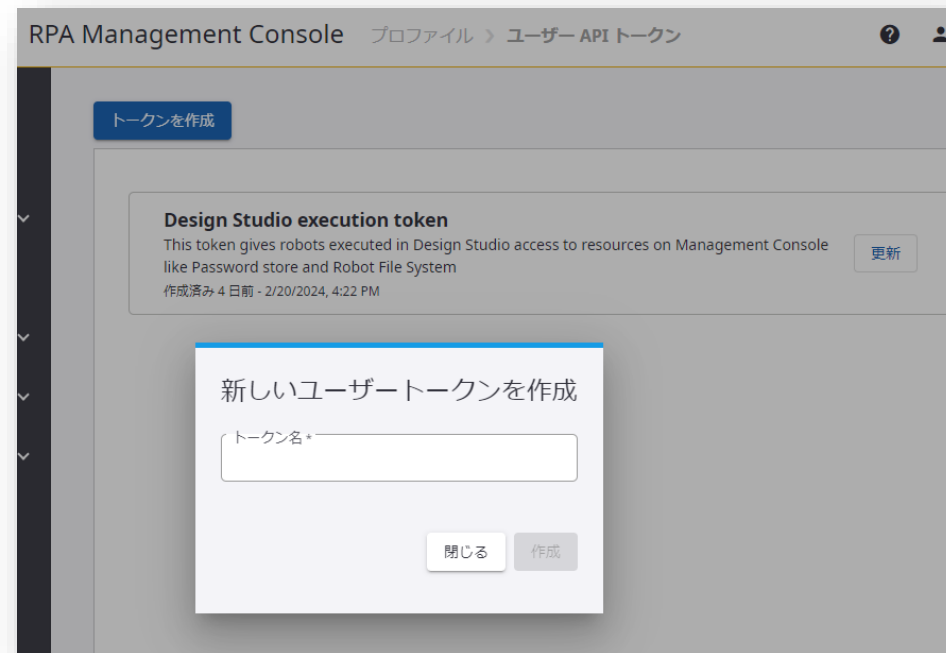
ユーザーAPIトークン

■ MCのAPIを利用するアプリケーションはこちらのユーザーAPIトークンを利用して認証を行い、ロボット起動などができます。従来の基本認証 (ID+パスワード)を利用せずに、こちらのトークンで実現することができます。各MCユーザーは独自のユーザー API トークンのデータを持ちします。

■ その他、従来のバージョンでは、MCのパスワードストアやRFSへのアクセスのために、DSから「アクセストークン」を取得し、MC側で適切に登録する必要がありました。パスワードストアに関しては[こちらのスライドの注意事項](#)をご確認下さい。

右側にある「Design Studio execution token」がはじめて登録され、こちらのトークンで自動的にDSからMCへ認証が行われます。こちらのトークンは削除できませんが、万が一、こちらのトークンが外部に漏れていると思われる場合は、「更新」ボタンを押下することでトークンの変更ができます。

※ 「RPA」という用語を使用して新しいトークンを登録することはできません。



6. OAuth アプリケーションのユーザーの削除

- ・コンシューマ キーまたはコンシューマ シークレットの編集時に、**[ユーザーを削除]** ボタンを使用して、OAuth アプリケーションに関連付けられているユーザーを削除できます。



アプリケーションの編集

プロジェクト
cefpj

名前*
oauth

サービスプロバイダ
Microsoft Azure AD 2.0

コンシューマキー:*
[masked]

コンシューマシークレット:*
(encrypted)

コールバック URL
http://localhost:8080/mc11505/OAuthCallback

ユーザーを削除 キャンセル OK

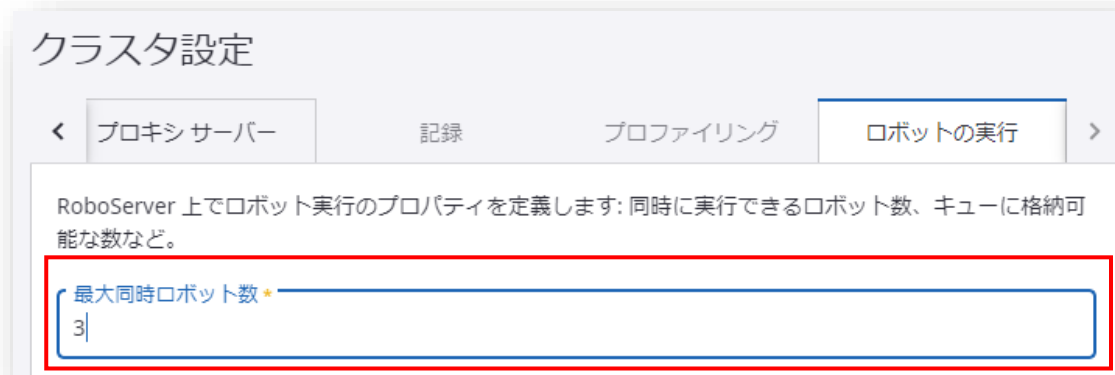
7. RoboServerのリソース調整機能

・MCから複数RoboServerで複数ロボット実行する場合、従来のMCでは次のロボットが一番空いている実行スロットを持つRoboServerにアサインされます。

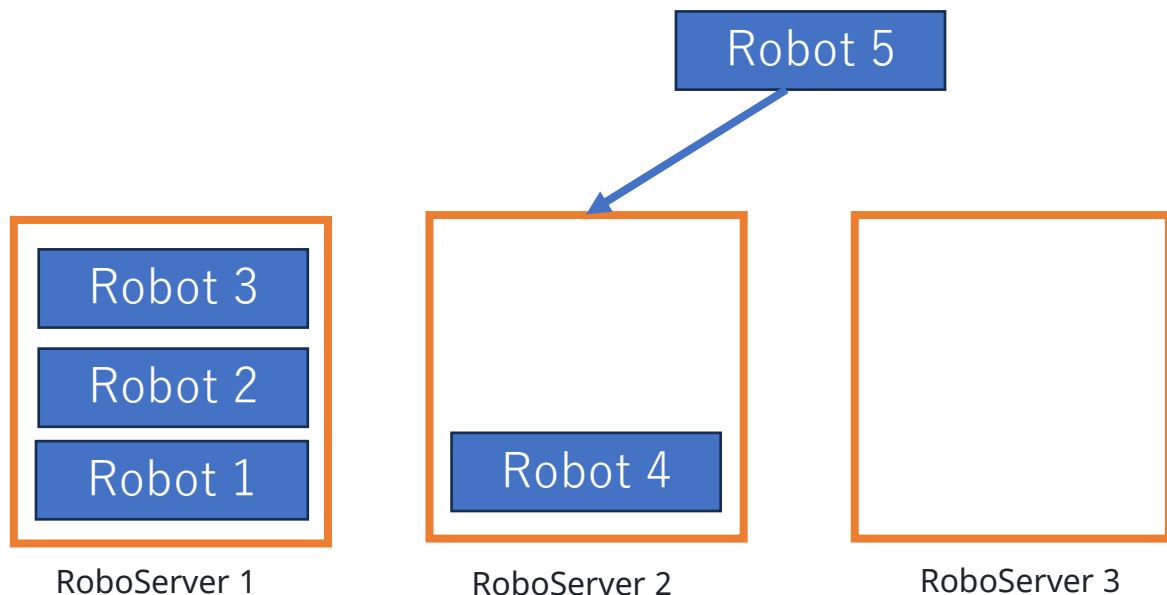
11.5からは、**RoboServerのスケーリング**機能で「実行予定のロボット」を「一番実行スロットが少ない」RoboServerに割り当てられます。これにより、RoboServerは一個ずつ使い切ってから次の方が利用されるように管理することができます。したがって、しばらく利用不要のRoboServerはオフすることができます。

特に、Cloud環境(AWS, Azure, GCP...)上でRoboServerを運用する場合、RoboServer端末をONにすると費用が掛かりますので、この機能によりコスト削減ができます。

デフォルトでは、こちらの機能はOFFになっています。



一つのRoboServerの実行スロットはクラスタで設定できます




8. 最大同時ロボット数とキュー数の変更

・ **Management Console**の 管理 > RoboServer > クラスタ設定 > ロボットの実行 のタブで表示している最大値のデフォルト値が変更されました：

最大同時実行ロボット数のデフォルト値は 「 5 」 になりました。

最大キュー格納可能ロボット数のデフォルト値は「10」になりました。

変更の理由は、1KCUあたりの同実行数が従来では多すぎたため、運用上 KCU Waitが発生しにくい値に最適化されました。



クラスタ設定

一般 データベース プロキシ サーバー 記録 プロファイリング **ロボットの実行**

RoboServer 上でロボット実行のプロパティを定義します: 同時に実行できるロボット数、キューに格納可能な数など。

最大同時ロボット数 *
5

最大キュー格納可能ロボット数 *
10

11.5にバージョンアップする際、バックアップファイルに定義されている「最大同時ロボット数」と「最大キュー格納可能ロボット数」のデータで上書きされます。

Kapplets

目次

【Kapplets】

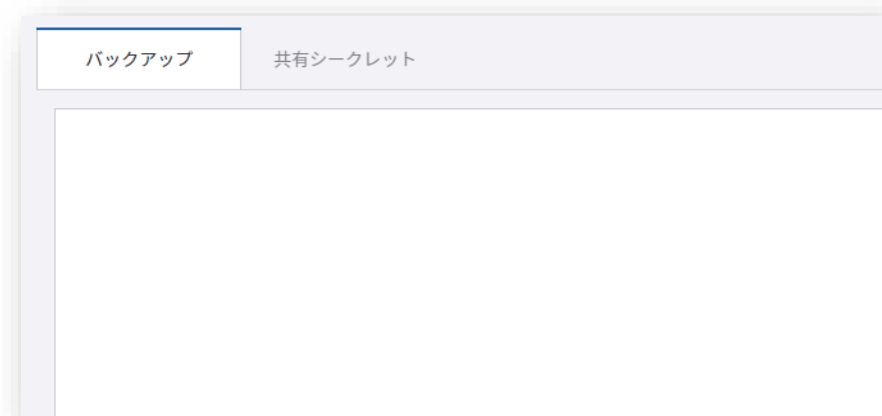
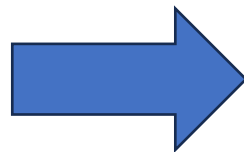
1. バックアップメニューのUI変更

1. バックアップメニューのUI変更

- バックアップ手順をよりわかりやすくするために、**[レガシー バックアップ]** タブが削除されました。Kaplets バックアップ ファイルを作成および復元するには、**[バックアップ]** タブを使用します。
- 名前統一のため、「**OAuth クライアントシークレット**」は「**共有シークレット**」に変更されました。



11.4



11.5

その他

目次

【その他】

1. RoboServerの変更
2. API変更
3. RoboServer認証の非推奨とパーシ機能の廃止

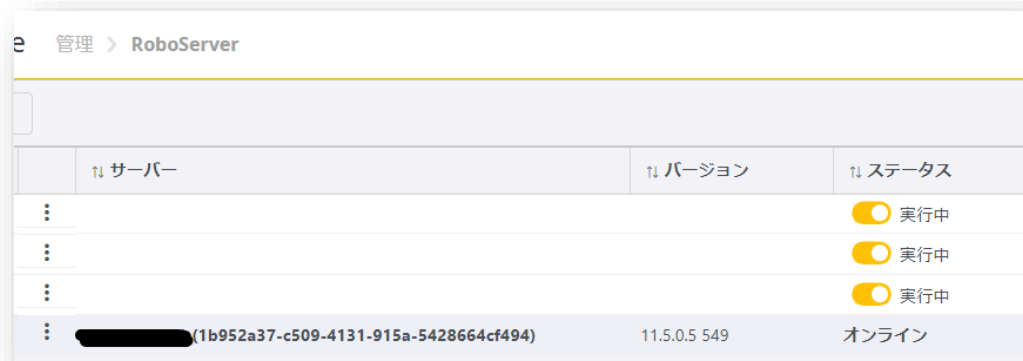
1. RoboServerの変更

ユーザー管理

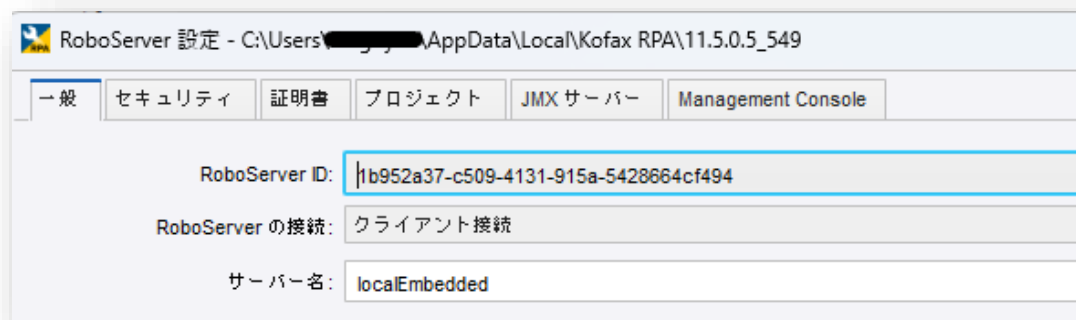
- RoboServerからMC への基本認証は廃止されました。OAuth認証でManagement Console により管理されます。

RoboServer ID

- Ver. 11.5から、RoboServerに RoboServer IDというものが追加されました。RoboServerをMCに登録した後に、こちらのユニークIDは、MCの『管理 > 管理 > RoboServer』から確認することができます。こちらの値はRoboServer Setting(RoboServer 設定)の「一般」タブにて確認することができます。



サーバー	バージョン	ステータス
⋮		実行中
⋮		実行中
⋮		実行中
⋮ (1b952a37-c509-4131-915a-5428664cf494)	11.5.0.5 549	オンライン



RoboServer 設定 - C:\Users\...AppData\Local\Kofax RPA\11.5.0.5_549

一般 セキュリティ 証明書 プロジェクト JMX サーバー Management Console

RoboServer ID: 1b952a37-c509-4131-915a-5428664cf494

RoboServer の接続: クライアント接続

サーバー名: localEmbedded

注意事項：

- 各Windowsマシンの各Windows OSユーザーに対して、バージョン11.5のRoboServer用にユニークIDが生成されます。
- 同じマシンで複数のバージョン11.5のRS(クラスタータイプに関わらず)を実行したい場合、それぞれのRSを実行するために同じ数のWindows OSユーザーが必要です。(同じ Windows OSユーザーで起動する場合、最初の11.5 RSのみ該当ユーザーに紐づけられた RoboServer ID で起動できます)

1. RoboServerの変更

ログ

- すべてのログが Management Console によって処理されるようになったため、RoboServer から RoboServer ログ データベースへの直接接続は必要なくなりました。

メモリ閾値の廃止

- RoboServer メモリオーバーロードを検出するための機能と検出用の閾値を設定するオプションは使用できなくなりました。現状、ロボットはRoboServer キューを利用せずに、MCキューで処理されるため、RoboServerのキュー機能をクリーンアップします。詳細は[こちらのナレッジ](#)をご参照下さい。

2. API変更

新しい Java/.NET API がリリースされました。

新しいAPIに伴って、認証方法は基本認証から APIキー（ユーザー APIトークン利用）に変更されました。
基本認証の方は同梱されているレガシーAPIをご利用下さい。

パブリック クラスは廃止されました

MCのリクエストにver11.5の API が含まれるようにするには、アプリケーションを更新する必要があります。
『[Java API ドキュメント](#)』およびオフラインドキュメント内の api フォルダにあるヘルプ ファイルを参照してください。

.NET API ターゲットの変更

NET API ターゲットは .NET Framework 4.0からStandardに変更されました。NET Core 2.0→6.0 と.NET Framework 4.7.2以降のバージョンをサポートします。

この変更は、.NET API および古いバージョンの .NET Framework を使用している既存のアプリケーションと設定に影響を与える可能性があることに注意してください。今後問題が発生しないように、以前の .NET API ログおよび古いバージョンの .NET Framework を使用しているアプリケーションを再構成します。

3. RoboServer認証の非推奨とパージ機能の廃止

MCの『設定 > 一般』では、以下の機能が停止されています。

RoboServer 認証

RoboServer は共有シークレットを使用して認証を行い、Management Console に登録するようになったため、こちらの機能は不要になりました。

本機能は Ver 11.5の Management Consoleを Ver 11.4 以前のRoboServerでご利用いただく場合に限り認証トークンが使用出来なくなってしまう為、機能を残しております。

将来的には削除される予定となっておりますのでご利用は推奨いたしません。

RoboServer パージ

Ver 11.5ではRoboServer がオンラインになると MCのRoboServer のリストに表示され、オフラインになるとリストから削除されるようになっているため、こちらの機能は不要になりました。



11.4



THANK YOU